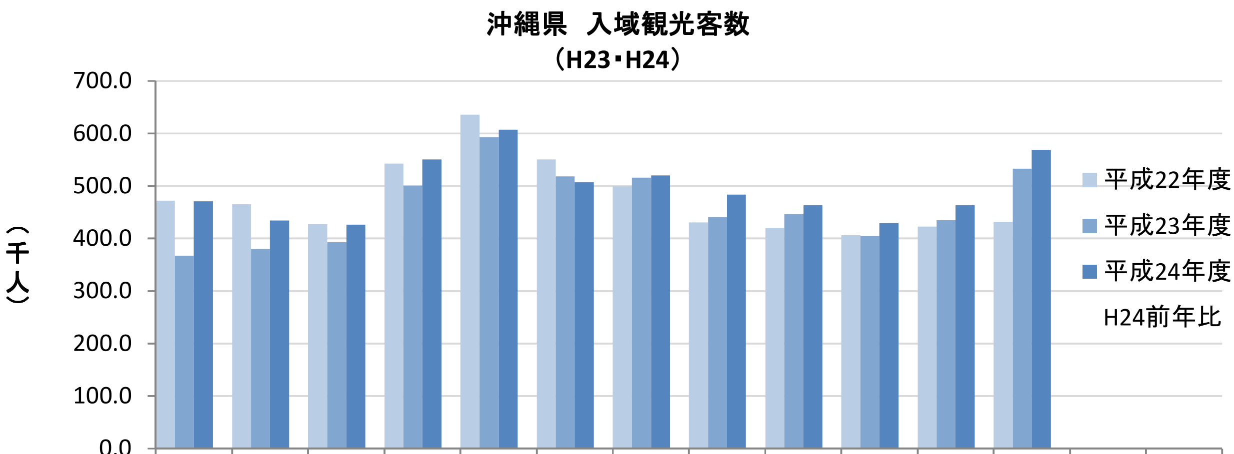
平成２４年度　沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部　観光政策課
平成 25 年 4 月発表

入域観光客数（国内＋外国）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
平成22年度	471.9	465.0	427.7	543.0	635.7	550.8	499.5	430.9	420.4	406.2	422.5	431.7	5,705.3	0.3%
平成23年度	367.2	380.2	392.8	500.2	593.2	518.4	515.6	440.7	446.8	405.0	434.8	533.1	5,528.0	△3.1%
平成24年度	471.1	434.3	426.4	550.4	607.2	507.3	519.7	483.1	463.4	429.7	463.2	568.9	5,924.7	7.2%
H24前年比	28.3%	14.2%	8.6%	10.0%	2.4%	△2.1%	0.8%	9.6%	3.7%	6.1%	6.5%	6.7%	7.2%	

平成24年度の観光客数は、592 万 4,700人
対前年（H23）比　＋39万6，700人、＋7．2％
・国内：554 万 2,200人（＋6．0％）構成比：93.5%
・海外：　38 万 2,500人（＋26．9％）構成比：6.5%

平成２４年度　観光客数について

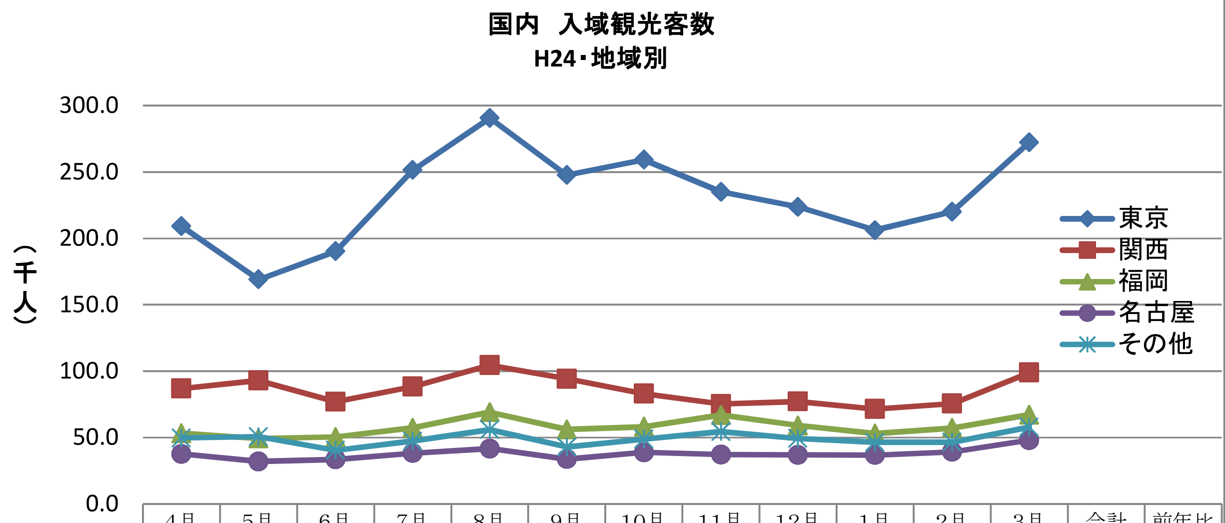
平成２４年度沖縄県の入域観光客数は、年間 592 万 4,700 人となり、対前年度比で 39 万 6,700 人増加、率にして＋7.2%となった。

平成２４年度の概況として、上半期は震災の影響による反動的な増加傾向にあったものの、円高の影響で割安感のある海外競合地、関東の商業施設等の人気、夏場の繁忙期に襲来した台風の影響等により、一昨年度（平成 22 年度）並みの実績までには至らなかった。

下半期は札幌からの直行便や LCC による成田・関西からの客数増加、海外からの航空路線拡充や大型クルーズ船寄港等が寄与したことで一昨年度を上回る実績で推移し、結果として平成２０年度（593 万 4,300 人）に次ぐ過去２番目の水準となった。

国内観光客数について

国内観光客数は554万2,200人となり、対前年比で31万5,600人増加（+6.0%）となった。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
東京	209.2	169.0	190.3	251.4	290.7	247.7	259.2	235.1	223.7	206.3	220.2	272.3	2,775.1	7.6%
関西	86.9	93.0	77.0	88.3	104.6	94.3	83.1	75.2	77.2	71.6	75.6	98.9	1,025.7	1.3%
福岡	53.3	49.3	50.4	57.3	69.1	56.1	58.1	66.9	59.1	53.0	57.2	67.2	697.0	1.5%
名古屋	37.7	32.0	33.5	38.2	41.7	33.8	38.9	37.2	36.9	36.8	39.2	48.1	454.0	3.8%
その他	49.7	50.7	40.4	47.3	56.0	42.9	48.9	54.4	49.4	46.4	46.5	57.8	590.4	15.5%
合計	436.8	394.0	391.6	482.5	562.1	474.8	488.2	468.8	446.3	414.1	438.7	544.3	5,542.2	6.0%
前年比	24.5%	10.6%	8.3%	4.0%	0.4%	△2.4%	2.8%	9.8%	3.2%	7.5%	4.8%	6.7%	6.0%	

東京方面

関東の商業施設（スカイツリー、ＴＤＲ商品等）や、円高による海外観光地との競合はあったものの、震災からの旅行需要回復や比較的低価格の旅行商品、コンベンションによる客数が好調に推移したこと、成田からのＬＣＣ（ジェットスター・ジャパン、エアアジア・ジャパン）就航による誘客効果により前年実績を大きく上回った。

関西方面

円高による海外旅行やＴＤＲ関連商品等の影響はあったものの、関西国際空港からのＬＣＣ就航（ピーチアビエーション、ジェットスタージャパン）による誘客効果、学生を含む若年層の安価な旅行商品が好調だったことから前年実績を上回った。

九州方面

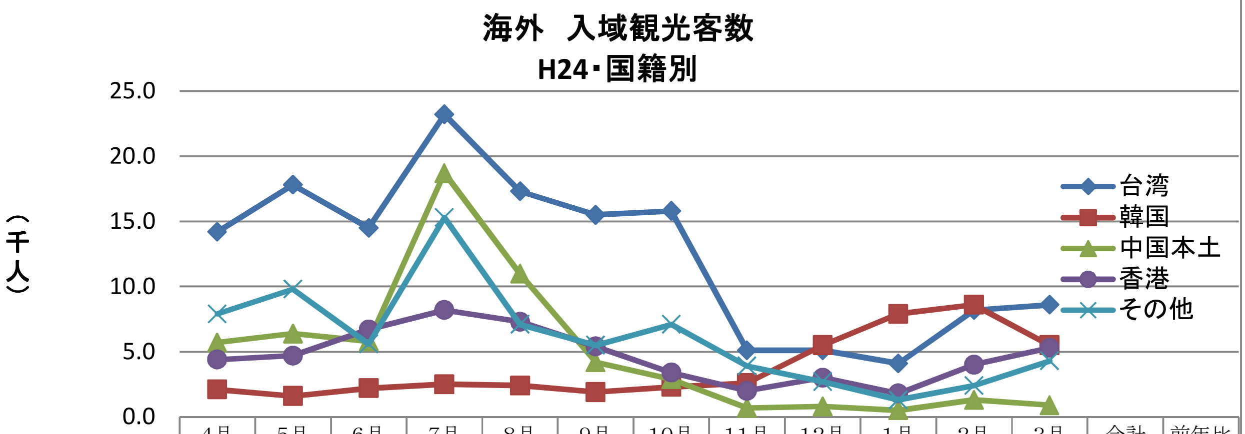
近距離の韓国、直行便があるハワイ方面、スカイツリー、TDR 商品等の影響があったものの、11 月の連休期間中の旅行需要や一般団体旅行が好調だったことから沖縄方面の旅行需要は比較的安定し、前年実績を上回った。

名古屋方面

円高の影響により海外競合地の影響はあったものの、旅行会社によるキャンペーン（新聞や電車内の広告）等による旅行需要喚起や、県内イベント（花火大会、首里城祭、大綱挽等）、離島関連商品が好調だったことから前年実績を上回った。

外国人観光客についての

外国人観光客数は38万2,500人となり、対前年比で8万1,100人増加（+26.9%）となった。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
台湾	14.2	17.8	14.5	23.2	17.3	15.5	15.8	5.1	5.1	4.1	8.2	8.6	149.4	29.2%
韓国	2.1	1.6	2.2	2.5	2.4	1.9	2.3	2.6	5.5	7.9	8.6	5.5	45.1	73.5%
中国本土	5.7	6.4	5.8	18.7	11.0	4.2	2.9	0.7	0.8	0.5	1.3	0.9	58.9	32.4%
香港	4.4	4.7	6.7	8.2	7.3	5.4	3.4	2.0	3.0	1.8	4.0	5.3	56.2	2.7%
その他	7.9	9.8	5.6	15.3	7.1	5.5	7.1	3.9	2.7	1.3	2.4	4.3	72.9	20.3%
合計	34.3	40.3	34.8	67.9	45.1	32.5	31.5	14.3	17.1	15.6	24.5	24.6	382.5	26.9%
前年比	110.4%	67.9%	11.2%	87.1%	34.2%	1.2%	△22.8%	2.9%	20.4%	△21.6%	52.2%	7.4%	26.9%	

台湾

沖縄への旅行需要は比較的安定しており、新規航空路線（復興航空、華信航空）の定期便就航、チャーター便等により航空路線が大幅に拡充し、7月には空路による観光客数が月単位として初めて1万人台となるなど、空路客を中心に大幅な増加となった。

韓国

沖縄でのドラマ撮影、テレビショッピングの商品販売等により沖縄の知名度が定着しつつあり、増加傾向が続いている。こういった状況のなか、アシアナ航空によるソウル線増便、釜山からのチャーター、ジンエアーの就航により、特に１２、１、２月は台湾を上回る大幅な増加となった。

中国本土

上海からの中国東方航空の増便、北京からの海南航空、中国国際航空の新規就航に加え、７、８月には大型クルーズ船の寄港により上半期実績は大幅な増加となった。９月以降、尖閣関連の影響により航空路線の減便、運休を受けて減少傾向に転じたが、年度合計では結果として前年実績を上回った。

香港

上半期は前年度と比べて震災の影響から回復したものの、１０月以降、尖閣関連の影響が顕著に見え始め、中国本土ほどではないものの、観光客数が減少傾向に転じた。２、３月は好調に推移しているが、引き続き注視していく必要がある。

平成24年5月公表資料

平成２４年（２０１２年）
４月　入域観光客数概況

４月の観光客数は、47万1,100人
対前年同月比　＋10万3,900人、　＋28．3％
～東日本大震災による減少の反動により大幅な増加となった～

入域状況

4月の入域観光客数は47万1,100人で前年同月実績36万7,200人を10万3,900人上回り、28.3%のプラスとなったことで一昨年並み（平成22年4月47万1,900人）の水準となった。この内、国内客は対前年同月実績から8万5,900人(24.5%)増加の43万6,800人、外国客は1万8,000人(110.4%)増加の3万4,300人となった。

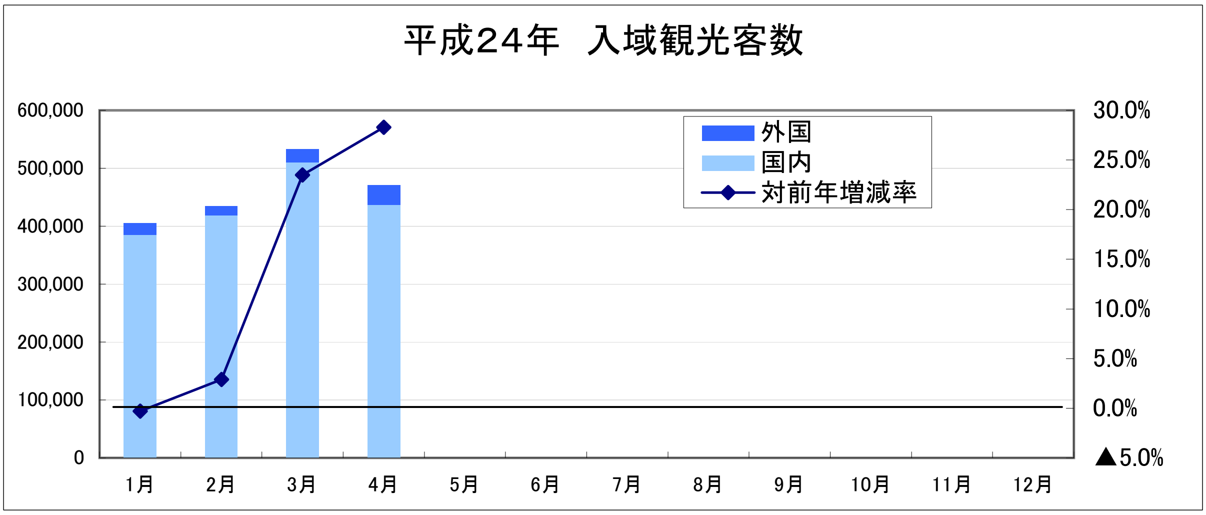
区分	入域観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
国内客	436,800 人	350,900 人	+ 85,900 人	+ 24.5%	92.7%
外国客	34,300 人	16,300 人	+ 18,000 人	+ 110.4%	7.3%
合計	471,100 人	367,200 人	+ 103,900 人	+ 28.3%	100%

国内客　入域状況

4月については円高の影響により海外旅行への需要が高まるなど、日本全体で消費活動が回復しているなか、沖縄への旅行についても前年同月実績を大幅に上回り、好調に推移した。
5月についても円高による海外旅行との競合も予想されるが、震災による反動及びGWを中心とした旅行需要の高まりが予想され、引き続き堅調な推移が見込まれる。

外国客　入域状況

4月について、3月の上海-那覇路線の増便、4月の台中-那覇路線の新規就航、また、台湾からのクルーズ船開始など海外クルーズ船の寄港回数が増えた（5回→7回）ことにより好調に推移した。
5月についても台北-石垣線の就航が予定されているなど引き続き好調な推移が予想され、一昨年（平成22年4月2万1,000人）を越える観光客数の増加が見込まれる。



地域別入域状況（国内）

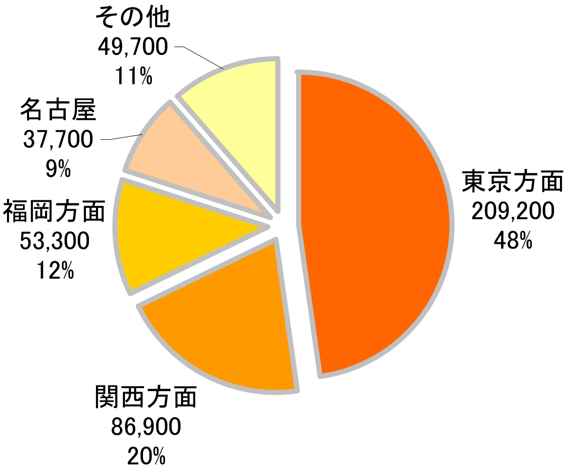
区分	国内観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
東京方面	209,200 人	156,400 人	+ 52,800 人	+ 33.8%	47.9%
関西方面	86,900 人	76,900 人	+ 10,000 人	+ 13.0%	19.9%
福岡方面	53,300 人	50,300 人	+ 3,000 人	+ 6.0%	12.2%
名古屋	37,700 人	29,000 人	+ 8,700 人	+ 30.0%	8.6%
その他	49,700 人	38,300 人	+ 11,400 人	+ 29.8%	11.4%
合計	436,800 人	350,900 人	+ 85,900 人	+ 24.5%	100.0%

※国内海路客：5,000人を含む　（東京：600人、関西：1,600人、鹿児島：2,200人、その他：600人）

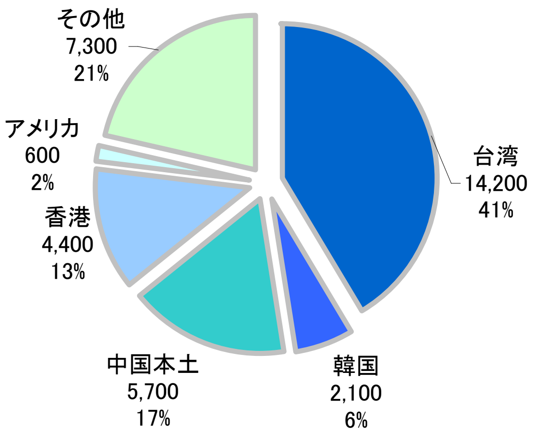
国籍別入域状況（海外）

区分	外国人観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
台湾	14,200 人	7,500 人	+ 6,700 人	+ 89.3%	41.4%
韓国	2,100 人	900 人	+ 1,200 人	+ 133.3%	6.1%
中国本土	5,700 人	1,700 人	+ 4,000 人	+ 235.3%	16.6%
香港	4,400 人	900 人	+ 3,500 人	+ 388.9%	12.8%
アメリカ	600 人	500 人	+ 100 人	+ 20.0%	1.7%
その他	7,300 人	4,800 人	+ 2,500 人	+ 52.1%	21.3%
合計	34,300 人	16,300 人	+ 18,000 人	+ 110.4%	100.0%

国内客　構成比



外国客　構成比



国籍別　空路・海路　入域状況（海外）

	空　路　17,300人			海　路　17,000人		
区分	観光客数	増減率	構成比	観光客数	増減率	構成比
台湾	4,900 人	+63.3%	28.3%	9,300 人	+106.7%	−
韓国	2,100 人	+133.3%	12.1%	0 人	−	−
中国本土	3,900 人	+3800.0%	22.5%	1,800 人	+12.5%	−
香港	4,300 人	+377.8%	24.9%	100 人	皆増	−
アメリカ	600 人	+100.0%	3.5%	0 人	皆減	−
その他	1,500 人	+275.0%	8.7%	5,800 人	+31.8%	34.1%
合計	17,300 人	+208.9%	100.0%	17,000 人	+58.9%	100.0%

※特例上陸者数：7,800人を含む

各方面ごとの概況と見通し

東京

4月について、首都圏を中心とした消費動向は回復傾向にあり、消費活動の中で「旅行・レジャー」の消費活動が活発になったことで、前年比を大きく上回った。
5月について、円高の影響や東北地方への旅行需要回復により国内市場における海外旅行、国内旅行マーケットは、対前年比で4%以上の伸びとなっているが、沖縄への送客は、対前年比を上回るものの、GWを含めて全体的に伸び悩み感がある。

大阪

4月について、震災の翌年ということで、対前年同月実績ではプラス傾向にあり、旅行各社ベースでは各社共に対前年並みかそれを上回るケースもあり、関西全体としては10%以上の伸びとなった。
今後は修学旅行、関空石垣線増便による利用者の増加、夏場のファミリー向け旅行商品も販売開始され、前年度以上の来沖者が見込めると思われる。

福岡

4月について、昨年の震災の反動から前年同月実績を上回った。震災後一年を過ぎ、旅行需要も回復し対前年を上回るものと思われる。
5月以降の予約状況では、金額の高いGWを避け、沖縄の梅雨明けの料金の下がる6月～7月が好調である。ANA福岡石垣線が6/15～9/30で季節運航するのに伴う旅行商品の販売による旅行需要の高まりが期待でき、好調な推移が見込まれる。

名古屋

大型花火イベント等による集客効果や、石垣への航空機チャーター便が完売するなど、4月は3月の好調な流れを維持し、好調に推移した。
5月、6月までは震災前の一昨年並みかそれを上回る入域客数も見込まれているが、7月以降はこれまで手控えられていた、東北、北海道への旅行客の戻りが予想され、沖縄への影響が懸念されており、夏場に掛けては堅調な推移が見込まれる。

台湾

台湾からの定期クルーズ船が寄港し始め、観光客数は4月としては大きく増加した（9,300人）。
5月以降、本格的なクルーズ船の寄港が予定されており、旅行需要が高まる時期となっている。航空機に関しては石垣-台北の定期チャーター就航が予定されており、一昨年並みかそれを上回る観光客数が見込まれる。

韓国

4月はアシアナ航空の減便(7便→5便)等による一時的な伸び悩みはあるものの、その中でもこれまで以上に沖縄への認知度は向上しているため、昨年、一昨年度以前の客数を越える推移となった。
5月以降は連休のが少ないこと、ということもあり、旅行需要の伸び悩みが懸念されるが、学校の週休二日制による家族連れ観光客の増加も期待され、今後は堅調な推移が見込まれる。

中国本土

4月も旅行需要が高い状態が安定して続いており、東方航空が週6便から週7便に変更されたことなどから、前年同月と比べて大幅な回復となった。
東方航空タイアップツアー（旅行社＋メディア＋東方航空営業所等）も組まれており、7月出発のロイヤルカリビアンクルーズの売れ行きも順調とのことから引き続き好調な推移が見込まれる。

香港

沖縄旅行は引き続き高い旅行需要に支えられており、4月はイースター連休の旅行需要の効果もあって、震災の影響があった昨年と比較して大きく増加した。
5月以降、各旅行社とも一部では沖縄線について席が非常に取りにくいというレポートもあり、好調な旅行需要が期待されることから、一昨年と同水準の観光客数が見込まれる。

担当：観光政策課　稲福（イナフク）　TEL：098－866－2763

平成24年6月公表資料

平成２４年（２０１２年）
５月　入域観光客数概況

５月の観光客数は、43万4,300人
対前年（H23）同月比　＋5万4,100人、＋14．2%

入域状況

平成23年度5月比 入域観光客数

区分	H24	H23	増減数	増減率	構成比
国内客	394,000 人	356,200 人	＋ 37,800 人	＋ 10.6%	90.7%
外国客	40,300 人	24,000 人	＋ 16,300 人	＋ 67.9%	9.3%
合計	434,300 人	380,200 人	＋ 54,100 人	＋ 14.2%	100%

平成22年度5月比 入域観光客数

区分	H24	H22	増減数	増減率	構成比
国内客	394,000 人	434,400 人	△ 40,400 人	△ 9.3%	90.7%
外国客	40,300 人	30,600 人	＋ 9,700 人	＋ 31.7%	9.3%
合計	434,300 人	465,000 人	△ 30,700 人	△ 6.6%	100%

国内客　入域状況

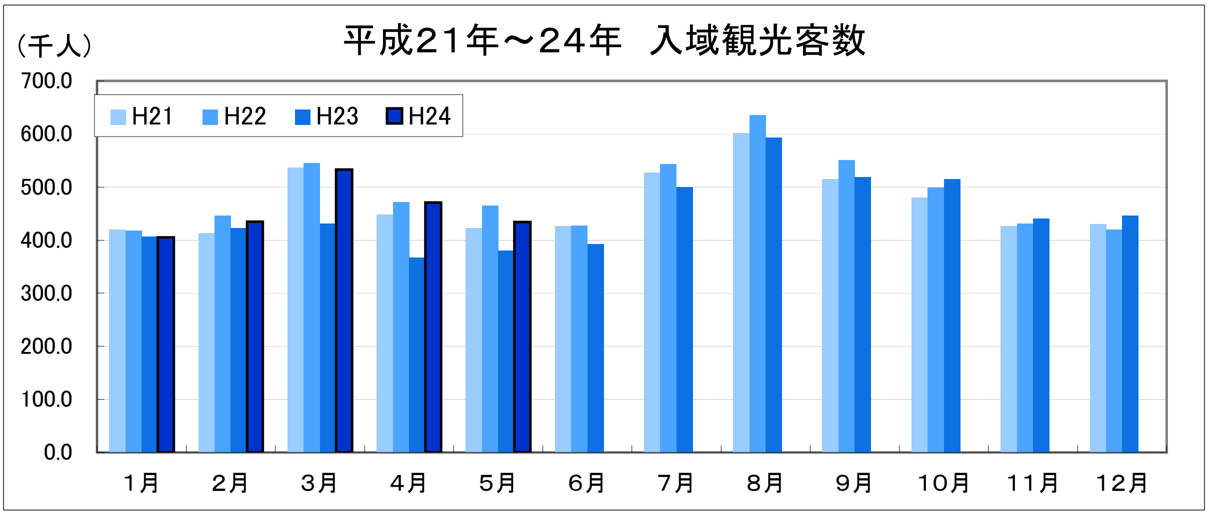
5月は震災の反動により前年比で大幅に増加したが、GWについては円高による海外旅行、関東・東北への旅行需要の高まり、日並び（連休の分散）の影響等により沖縄への旅行需要が伸び悩んだことから、一昨年の実績には及ばなかった。

6月以降も前年に対しては震災の反動による増加が予想されるが、円高による海外旅行との競合という懸念等もあり、一昨年と比べると伸び悩みが予想される。

外国客　入域状況

5月の外国人観光客数は前年に比べると、震災の反動に加え、週あたりの航空便が中華圏で増加していること（18便→40便）、台湾からのクルーズ等も増加している（8回→14回）こともあり好調に推移した。

6月以降も高雄-那覇線の定期チャーター便の就航や、台湾からのクルーズ船の寄港回数増加が予定されており、引き続き好調な推移が見込まれる。



地域別入域状況（国内）

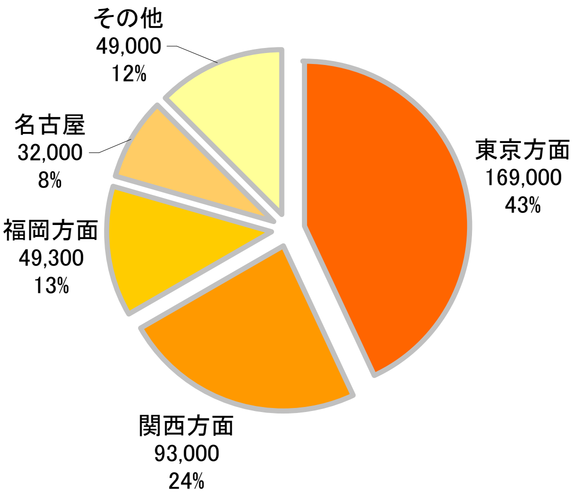
区分	国内観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
東京方面	169,000 人	148,100 人	＋ 20,900 人	＋ 14.1%	43.1%
関西方面	93,000 人	94,500 人	△ 1,500 人	△ 1.6%	23.7%
福岡方面	49,300 人	47,400 人	＋ 1,900 人	＋ 4.0%	12.6%
名古屋	32,000 人	28,100 人	＋ 3,900 人	＋ 13.9%	8.2%
その他	49,000 人	38,100 人	＋ 10,900 人	＋ 28.6%	12.5%
合計	392,300 人	356,200 人	＋ 36,100 人	＋ 10.1%	100.0%

※国内海路客：5,400人を含む　（東京：100人、関西：100人、鹿児島：3,100人、その他：2,100人）

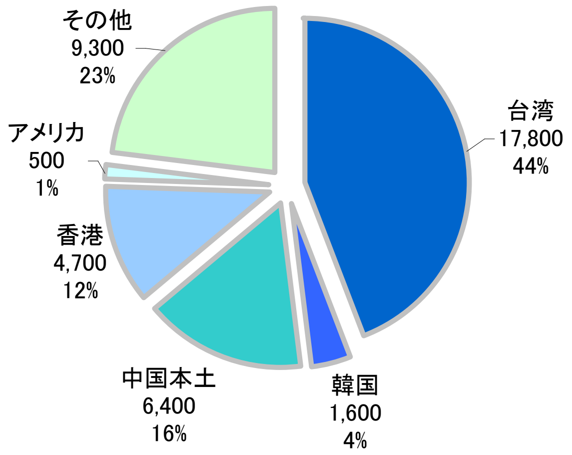
国籍別入域状況（海外）

区分	外国人観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
台湾	17,800 人	11,600 人	＋ 6,200 人	＋ 53.4%	44.2%
韓国	1,600 人	1,100 人	＋ 500 人	＋ 45.5%	4.0%
中国本土	6,400 人	2,700 人	＋ 3,700 人	＋ 137.0%	15.9%
香港	4,700 人	1,700 人	＋ 3,000 人	＋ 176.5%	11.7%
アメリカ	500 人	400 人	＋ 100 人	＋ 25.0%	1.2%
その他	9,300 人	6,500 人	＋ 2,800 人	＋ 43.1%	23.1%
合計	40,300 人	24,000 人	＋ 16,300 人	＋ 67.9%	100.0%

国内客　構成比



外国客　構成比



国籍別　空路・海路　入域状況（海外）

区分	空　路　18,300人			海　路　22,000人		
	観光客数	増減率	構成比	観光客数	増減率	構成比
台湾	6,600 人	+78.4%	36.1%	11,200 人	+41.8%	50.9%
韓国	1,600 人	+45.5%	8.7%	0 人	−	−
中国本土	3,600 人	+3500.0%	19.7%	2,800 人	+7.7%	12.7%
香港	4,700 人	+176.5%	25.7%	0 人	−	−
アメリカ	500 人	+25.0%	2.7%	0 人	−	−
その他	1,300 人	+116.7%	7.1%	8,000 人	+35.6%	36.4%
合計	18,300 人	+140.8%	100.0%	22,000 人	+34.1%	100.0%

※特例上陸者数：10,600人を含む

各方面ごとの概況と見通し

東京

5月について、GWは東京都内の大型商業施設に注目が集まり、各地から東京方面への送客が例年に比べ好調に推移し、円高による海外旅行（ヨーロッパやハワイ）、その他東北方面への復興支援を兼ねたツアーが人気だったこともあり、低調に推移した。
今後はハワイ、北海道等の競合が予想されており、見通しは厳しいものの、SKYの茨城路線就航、LCCの沖縄への路線参入が予定されており、北関東からの誘客に期待がもてる。

大阪

5月について、GWの日並びによる出控え傾向があったため旅行客の伸びが低調で推移した。特に関西圏では公立中学校の修学旅行の時期でもあり、一般旅行客の航空座席数が不足したケースもある。
夏に向けた各旅行会社の家族向け商品の出足は好調であるが、スカイツリーやTDRといった関東方面との競合も予想され、前年並みから若干増加傾向で推移するものと思われる。

福岡

5月について、GWの日並びの影響や九州新幹線を利用した九州内及び関東・関西方面が順調であったことから沖縄への旅行需要が減少し、前年実績から微増にとどまった。
6月以降、夏向けの低価格商品が人気ではあるが、関東方面や円高の影響と距離感から韓国、定期運航の始まったハワイ直行便が好調である。8/16国体九州地区予選の影響で、一般旅行者への座席が少ないが、旅行者数は対前年並みで推移するものと思われる。

名古屋

5月について、昨年は震災により旅行動向が西高東低の傾向にあったため、それと比較すると今年は沖縄への旅行が伸び悩む懸念もあるが、SKYの利用者も増えており、今月前半のGWは好調だったため、前年実績を上回った。
昨年の6月よりSKYが就航しているため今後は増加数が鈍化し、7、8月はこれまで手控えられていた東北、北海道への旅行客の増加も予想されるため昨年並みの推移が見込まれる。

台湾

5月について、昨年と比較すると震災の反動から華信航空、復興航空のチャーター便による台北-石垣の観光客や、スタークルーズに加えオリエンタルドラゴンの2船が就航しているため、観光客数が大幅に増加し好調に推移した。
7/1から復興航空が台北-那覇で就航する予定であり、路線がダブルトラックになることで価格競争や消費者への選択しが生まれ、更なる観光入域数の増加が期待される。

韓国

5月は、夏場のオンシーズンへ向けて旅行を遅らせる傾向もあり、伸び悩む傾向もある。韓国の連休も日並びが影響し、大きな旅行需要には繋がらなかったが、全体としては昨年の反動により前年実績を上回った。
6月は休日が少ないが、7月からアシアナ航空が増便しデイリー運航（5便→7便）となるのに加え、学校が夏休みによる旅行需要の高まりも予想され、好調な推移が見込まれる。

中国本土・北京

5月について、昨年同月には無かった海南航空、中国国際航空（計週4便）が就航しており、空路を中心に大幅な増加となった。北京からはまだまだ団体旅行による観光客が多いが、インセンティブツアーが増える傾向にある。
6月以降、円高の状況にはあるものの、空路による観光客を始め、高い旅行需要に支えられ好調に推移するものと見込まれる。

中国本土・上海

5月について、航空機搭乗率の減少から旅行者数の伸び悩みという懸念はあるものの、上海便の増便（昨年同月の週2便から今年は週5便）に伴い最終的には観光客数は増加している。
今後は個人旅行の増加も予想されており、7月に吉祥航空の就航（週4便）やロイヤルカリビアン（3100名乗り）が3隻、8月に1隻が寄港することから大幅増が見込まれる。

香港

5月について、昨年の震災の反動と、昨年には無かったドラゴン航空（週4便）の定期便就航により大幅な増加となった。
今後は夏場の繁盛期に向けて旅行需要も増加することから、一昨年並みの水準で推移するものと見込まれており、引き続き安定的で好調な推移が見込まれる。

担当：観光政策課　稲福（イナフク）　TEL：098－866－2763

平成２４年（２０１２年）
６月　入域観光客数概況

６月の観光客数は、42万6,400人
対前年（H23）同月比　＋3万3,600人、＋8．6％

入域状況

平成23年度6月比 入域観光客数

区分	H24	H23	増減数	増減率	構成比
国内客	391,600　人	361,500　人	＋　30,100　人	＋　8.3%	91.8%
外国客	34,800　人	31,300　人	＋　3,500　人	＋　11.2%	8.2%
合計	426,400　人	392,800　人	＋　33,600　人	＋　8.6%	100%

平成22年度6月比 入域観光客数

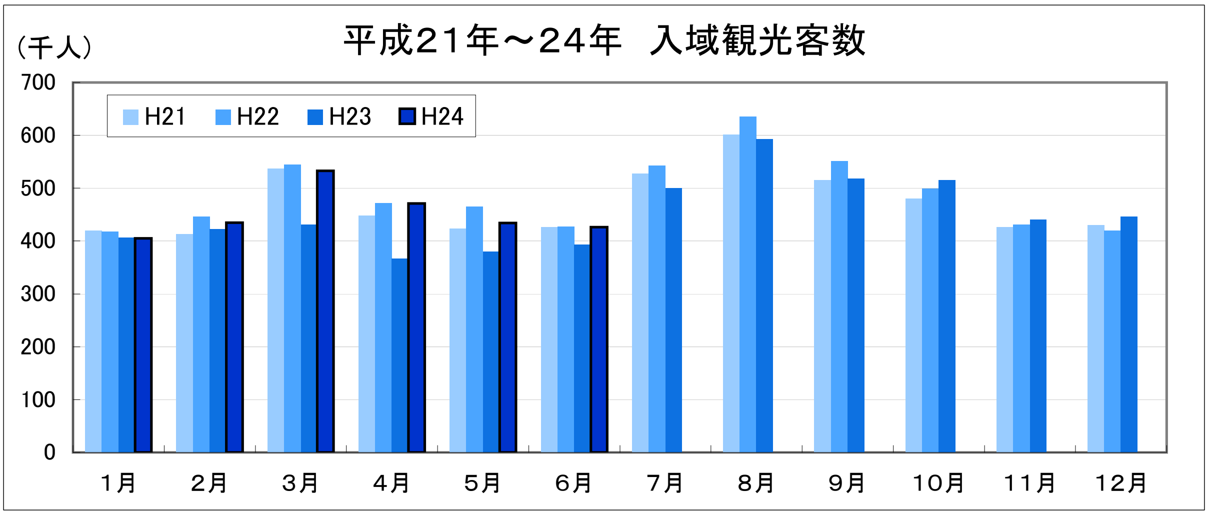
区分	H24	H22	増減数	増減率	構成比
国内客	391,600　人	394,400　人	△　2,800　人	△　0.7%	91.8%
外国客	34,800　人	33,300　人	＋　1,500　人	＋　4.5%	8.2%
合計	426,400　人	427,700　人	△　1,300　人	△　0.3%	100%

国内客　入域状況

　昨年の6月は震災や台風による影響があったため、その反動により対前年比8.6%の増加となった。東日本への旅行需要の増加、円高による海外旅行の影響で一昨年比では国内客は0.7%の微減となり、概ね震災前の水準となった。
　7月以降についても東日本への旅行や円高の影響が予想されるが、LCC就航による旅行客増加も期待され、前年をやや上回る水準で推移するものと見込まれる。

外国客　入域状況

　6月は台風によるクルーズ船のキャンセルが発生した台湾以外、昨年と比較しても航空路線が増加していることから主要外国客数は増加し、前年実績を上回った。
　7月以降、円高による懸念事項は残るものの、台湾、韓国路線の増便、吉祥航空の就航、更には上海からのクルーズ船寄港による入域客数増加が期待されており、好調な推移が見込まれる。



地域別入域状況(国内)

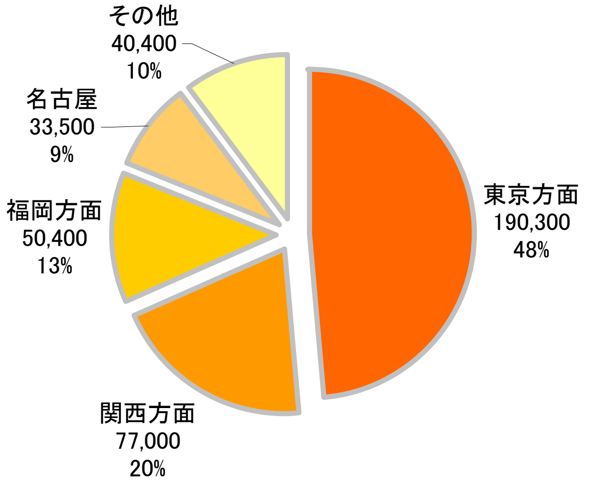
区分	国内観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
東京方面	190,300 人	169,700 人	+ 20,600 人	+ 12.1%	48.6%
関西方面	77,000 人	75,700 人	+ 1,300 人	+ 1.7%	19.7%
福岡方面	50,400 人	49,500 人	+ 900 人	+ 1.8%	12.9%
名古屋	33,500 人	34,400 人	△ 900 人	△ 2.6%	8.6%
その他	40,400 人	32,200 人	+ 8,200 人	+ 25.5%	10.3%
合計	391,600 人	361,500 人	+ 30,100 人	+ 8.3%	100.0%

※国内海路客:1,700人を含む　（関西:100人、鹿児島:1,600人）

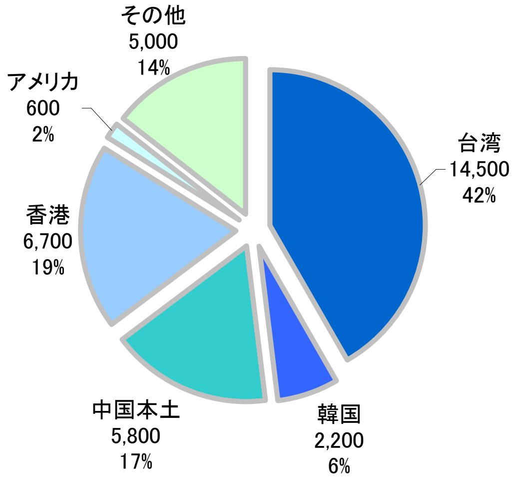
国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
台湾	14,500 人	16,200 人	△ 1,700 人	△ 10.5%	41.7%
韓国	2,200 人	1,500 人	+ 700 人	+ 46.7%	6.3%
中国本土	5,800 人	2,700 人	+ 3,100 人	+ 114.8%	16.7%
香港	6,700 人	4,300 人	+ 2,400 人	+ 55.8%	19.3%
アメリカ	600 人	300 人	+ 300 人	+ 100.0%	1.7%
その他	5,000 人	6,300 人	△ 1,300 人	△ 20.6%	14.4%
合計	34,800 人	31,300 人	+ 3,500 人	+ 11.2%	100.0%

国内客　構成比



外国客　構成比



国籍別　空路・海路　入域状況(海外)

	空　路　23,700人			海　路　11,100人		
区分	観光客数	増減率	構成比	観光客数	増減率	構成比
台湾	8,300 人	+53.7%	35.0%	6,200 人	△42.6%	55.9%
韓国	2,000 人	+33.3%	8.4%	200 人	皆増	1.8%
中国本土	4,600 人	+2200.0%	19.4%	1,200 人	△52.0%	10.8%
香港	6,700 人	+55.8%	28.3%	0 人	−	−
アメリカ	600 人	+100.0%	2.5%	0 人	−	−
その他	1,500 人	+150.0%	6.3%	3,500 人	△38.6%	31.5%
合計	23,700 人	+92.7%	100.0%	11,100 人	△41.6%	100.0%

※特例上陸者数:4,700人を含む

各方面ごとの概況と見通し

東京

6月について、中旬の台風4号による影響、円高による海外旅行との競合が懸念事項ではあるものの、比較的安価な旅行商品が売れ筋だったことから前年比で大幅な増加となった。
東北応援ツアー、北海道、ハワイ、ヨーロッパの旅行商品が好調なことから伸び悩みが懸念されるが、LCCやSKY茨城線の就航による効果も期待されることから堅調な推移が見込まれる。

大阪

6月について、修学旅行による安定的な入込や、関西地方の梅雨入り後は梅雨明けした沖縄への旅行需要が高まったことから昨年、一昨年並みの水準となった。
今後は航空機の機材縮小による提供座席数の減少、休暇を利用した関東、北海道、海外リゾートの旅行需要の増加が予想され、伸び悩みが懸念される。

福岡

6月について、東京、北海道が非常に好調にあるが、九州新幹線を利用した九州内旅行の伸びも落ち着き、沖縄の梅雨明けによる旅行需要の高まりで前年並みの推移となった。
7月以降、東京、北海道及び近場の韓国や直行便があるハワイ、グアムの人気が依然として根強いが、ANA福岡石垣線も好調に推移していることから、前年並みに推移するものと見込まれる。

名古屋

昨年の6月よりSKYが就航しているため今後は増加数が鈍化し、手控えられていた東北、北海道への旅行需要が増加したため前年実績を下回った。
今後は夏場の繁盛期にかけて梅雨明けした沖縄への旅行需要が増加するシーズンではあるが、東日本や海外への旅行需要増加が予想され、伸び悩みが懸念される。

台湾

6月について、昨年に比べて復興航空(週4便)が就航しているものの、台風4号の影響によりクルーズ船、航空機のキャンセルが発生したことから約2,200人に影響があり、前年実績を下回った。
今後は、昨年と比較しても復興航空の台北-那覇で就航しており、クルーズ船(スタークルーズ)の売り上げも人気であることから好調に推移するものと見込まれる。

韓国

6月は、連休の日並びも悪く、夏場前の旅行需要低下の時期ではあったが、沖縄に関しては、昨年と比較すると認知度も向上しているためか前年実績を上回る推移となった。
今後は7/16からアシアナ航空が増便しデイリー運航(5便→7便)となるのに加え、学校の夏休みによる旅行需要の高まりも予想されることから好調な推移が見込まれる。

中国本土・北京

6月について、昨年同月には無かった海南航空、中国国際航空(計週4便)が就航しており、空路を中心に大幅な増加となった。北京からは以前として団体旅行が多い傾向にある。
今後は、円高の状況にはあるものの、高額所得者層の旅行が期待され、夏場に向けて空路による搭乗率が上がり好調な推移が見込まれる。

中国本土・上海

6月について、航空機搭乗率の減少から旅行者数の伸び悩みがあったが、6月後半からは夏休みに入ったため、旅行需要が回復し、旅行商品の売れ行きも良く、好調に推移した。
今後も高い旅行需要に支えられ、海路ではボイジャーオブザシーズの寄港(7月は3回)、9月からは吉祥航空(週4便)により観光客数は飛躍的に伸びることが予想される。

香港

6月について、円高による航空機の搭乗率低下が懸念されているが、、ドラゴン航空(週4便)の定期便就航等により好調に推移し、6月としては過去最高の実績となった。
円高による懸念は払拭できないものの、今後は夏場に向けてファミリー旅行を含めた旅行需要の増加も予想され、引き続き好調な推移が見込まれる。

担当:観光政策課　稲福(イナフク)　TEL:098－866－2763

平成２４年（２０１２年）
７月　入域観光客数概況

７月の観光客数は、55万400人
対前年（H23）同月比　＋5万200人、＋10．0%

入域状況

平成23年度7月比 入域観光客数

区分	H24	H23	増減数	増減率	構成比
国内客	482,500 人	463,900 人	＋ 18,600 人	＋ 4.0%	87.7%
外国客	67,900 人	36,300 人	＋ 31,600 人	＋ 87.1%	12.3%
合計	550,400 人	500,200 人	＋ 50,200 人	＋ 10.0%	100%

平成22年度7月比 入域観光客数

区分	H24	H22	増減数	増減率	構成比
国内客	482,500 人	502,900 人	△ 20,400 人	△ 4.1%	87.7%
外国客	67,900 人	40,100 人	＋ 27,800 人	＋ 69.3%	12.3%
合計	550,400 人	543,000 人	＋ 7,400 人	＋ 1.4%	100%

国内客　入域状況

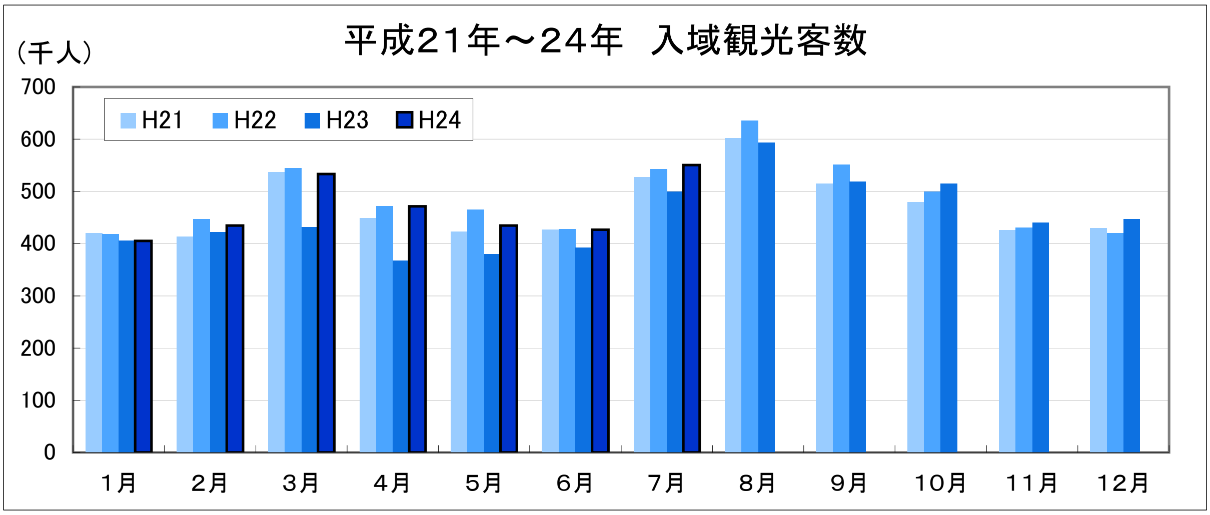
7月は台風の影響が一部であったが、昨年と比べると航空座席数が増加し、対前年比4%の増加となった。関東を含めた東日本への旅行需要の増加、円高の影響で一昨年比では国内客は4.1%の減少となり、震災前の水準に対しては伸び悩みが見られる。

8月以降、東日本への旅行や円高の影響が予想されるが、夏場の沖縄への旅行需要は安定しており、台風のあった昨年8月よりはやや上回るものと予想される。

外国客　入域状況

7月は台湾の航空路線が週14便から25便に増え、上海からの大型クルーズ船の寄港により過去最大の観光客数(6万7,900人)を記録した。これにより観光客数全体としては対一昨年度比で増加となり、7月としては過去最高の客数となった。

8月以降、円高による影響は一部あるものの、夏場のシーズンに合わせ昨年と比較しても空路、海路共に輸送路線が拡充されているため好調な推移が見込まれる。



地域別入域状況（国内）

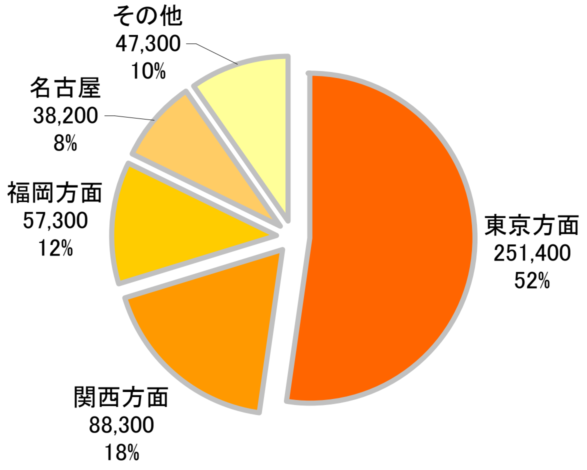
区分	国内観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
東京方面	251,400 人	243,100 人	+ 8,300 人	+ 3.4%	52.1%
関西方面	88,300 人	88,000 人	+ 300 人	+ 0.3%	18.3%
福岡方面	57,300 人	56,800 人	+ 500 人	+ 0.9%	11.9%
名古屋	38,200 人	38,800 人	△ 600 人	△ 1.5%	7.9%
その他	47,300 人	37,200 人	+ 10,100 人	+ 27.2%	9.8%
合計	482,500 人	463,900 人	+ 18,600 人	+ 4.0%	100.0%

※国内海路客:2,500人を含む　（東京:100人、関西:100人、鹿児島:2,300人）

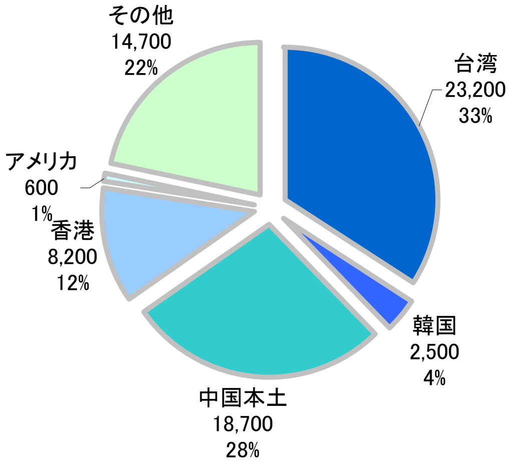
国籍別入域状況（海外）

区分	外国人観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
台湾	23,200 人	16,700 人	+ 6,500 人	+ 38.9%	34.2%
韓国	2,500 人	2,300 人	+ 200 人	+ 8.7%	3.7%
中国本土	18,700 人	2,800 人	+ 15,900 人	+ 567.9%	27.5%
香港	8,200 人	8,500 人	△ 300 人	△ 3.5%	12.1%
アメリカ	600 人	300 人	+ 300 人	+ 100.0%	0.9%
その他	14,700 人	5,700 人	+ 9,000 人	+ 157.9%	21.6%
合計	67,900 人	36,300 人	+ 31,600 人	+ 87.1%	100.0%

国内客　構成比



外国客　構成比



国籍別　空路・海路　入域状況（海外）

	空　路　28,500人			海　路　39,400人		
区分	観光客数	増減率	構成比	観光客数	増減率	構成比
台湾	10,100 人	+46.4%	35.4%	13,100 人	+33.7%	33.2%
韓国	2,500 人	+8.7%	8.8%	0 人	−	0.0%
中国本土	5,400 人	+500.0%	18.9%	13,300 人	+600.0%	33.8%
香港	7,900 人	△4.8%	27.7%	300 人	+50.0%	−
アメリカ	500 人	+66.7%	1.8%	100 人	皆増	−
その他	2,100 人	+50.0%	7.4%	12,600 人	+193.0%	32.0%
合計	28,500 人	+41.8%	100.0%	39,400 人	+143.2%	100.0%

※特例上陸者数:14,300人を含む

各方面ごとの概況と見通し

平成24年7月公表資料

東京

7月について、台風7号の影響もあり、中旬は航空、旅行各社、ホテルの伸び悩みがあったものの、下旬から持ち直し、全体的には対前年を上回る推移となった。
8月以降、上旬の台風11号により、一部キャンセルはあったものの、昨年と比較しても沖縄方面は比較的安定している。9月からは修学旅行、10月からは秋休み効果、日本オープンゴルフ等、各種イベントによる集客により堅調な推移が見込まれる。

大阪

7月について、大幅な増加とはならなかったが、夏休み向けのファミリー向け商品の早期申込み割引が好評だった事もあり、安定した旅行需要に支えられ前年並みの推移となった。
今後の動向としては関東（TDR、東京）への旅行者増の傾向がある。ホテルには空きがあるものの航空機が満席、といったケースで大幅な増加とはならないが、全体としては前年並みで推移するものと見込まれる。

福岡

7月について、北海道、関東方面の人気が高く、旅行各社を通じた沖縄への客数に伸び悩みが見られるが、九州新幹線人気も落ち着いてきており、対前年並みの推移となった。
8月以降、国体九州地区予選が開催される関係で、一般旅行客の航空座席数が限定されることで大きな伸びは見込めないが、対前年並みで推移するものと見込まれる。

名古屋

7月について、前年同月と比べて観光客数実績は微減となったが、経由便による宮古、八重山への旅行が好評、という報告もあり、6月後半の好調を維持し、好調だった昨年並みの水準となった。
今後の観光客数について、8月も7月に引き続き好調な推移が見込まれており、10月の那覇大綱引き等、地元イベントとタイアップした企画、その誘客効果も期待される。

台湾

7月は台風の影響によりクルーズ船、航空機のキャンセルが発生したが、7/1から復興航空（週7便）が就航し、空路による実績が月単位としては初の1万人台を超え、好調に推移した。
今後について、8月は既に台風によるキャンセルが発生しているが、昨年同時期と比べても航空機も多く、海路によるクルーズ船による輸送も安定していることから好調に推移するものと見込まれる。

韓国

7月は夏場では初めてアシアナ航空のデイリー運航、中旬からの学校の夏休みによる旅行需要の拡大等によるプラス要因はあるものの、円高による旅行費用の高騰から微増となった。
今後は円高による影響や、学校の土曜日休日による授業日数調整のため休み期間を縮小するケースもあるが、9月の連休期間中はチャーター便も計画されており、堅調な推移が見込まれる。

中国本土・北京

7月について、昨年と比較すると海南航空、中国国際航空（合計週4便）が就航した効果や、それに合わせるように夏場の旅行シーズンでもあることから高い旅行需要に支えられ好調に推移した。
今後は、円高の状況にはあるものの、8月の夏のトップシーズンに向けて引き続き好調な推移が見込まれる。

中国本土・上海

7月について、海路のヴォイジャー・オブ・ザ・シーズの寄港（3回）により1万9千人余の観光客数を記録、空路もチャーター便を含めた航空便が週14便（前年は週2便）となっており、前年実績を大きく上回った。
9月からは吉祥航空(週4便)により観光客数の伸びが期待されるが、旅行会社、航空会社を通じた旅行の予約状況に一部、伸び悩みが見られ、今後は堅調に推移するものと見られる。

香港

7月について、各旅行社とも沖縄路線（航空路線）については席が非常に取りにくい、というケースもあり、引き続き沖縄への旅行需要が高く、夏場については安定して推移している状況にある。
円高による懸念は払拭できないものの、今後は夏休み向けのファミリー旅行を含めた旅行需要、10月の国慶節連休も引き続き安定的な推移が見込まれる。

担当：観光政策課　稲福（イナフク）　TEL：098－866－2763

平成24年9月公表資料

平成２４年（２０１２年）
８月　入域観光客数概況

８月の観光客数は、60万7,200人
対前年（H23）同月比　＋1万4,000人、＋2．4%

入域状況

平成23年度8月比 入域観光客数

区分	H24	H23	増減数	増減率	構成比
国内客	562,100 人	559,600 人	+ 2,500 人	+ 0.4%	92.6%
外国客	45,100 人	33,600 人	+ 11,500 人	+ 34.2%	7.4%
合計	607,200 人	593,200 人	+ 14,000 人	+ 2.4%	100%

平成22年度8月比 入域観光客数

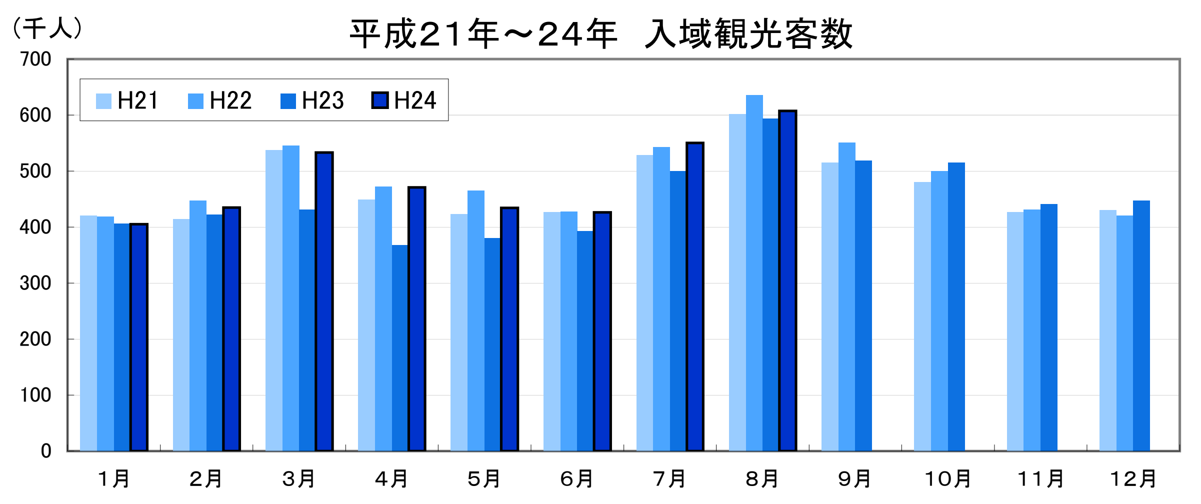
区分	H24	H22	増減数	増減率	構成比
国内客	562,100 人	600,800 人	△ 38,700 人	△ 6.4%	92.6%
外国客	45,100 人	34,900 人	+ 10,200 人	+ 29.2%	7.4%
合計	607,200 人	635,700 人	△ 28,500 人	△ 4.5%	100%

国内客　入域状況

8月は週末に襲来した台風１５号の影響により、夏休み期間中の旅行キャンセルが発生したが、沖縄への旅行需要は比較的安定しており、前年実績を上回った。
今後は海外競合地、東京方面を含む東日本方面の旅行の需要増加の影響により伸び悩みが懸念されるが、関西方面のLCC就航等などの集客も期待されており、堅調な推移が見込まれる。

外国客　入域状況

8月は円高の影響や台風による旅行キャンセルが発生したものの、夏場のシーズンに合わせ昨年と比較しても空路、海路共に輸送路線が拡充されているため好調に推移した。
対前年と比較した場合、航空機の便数は増加しているが、今後は日中関係悪化による訪日旅行の自粛等の動向について留意していく必要がある。



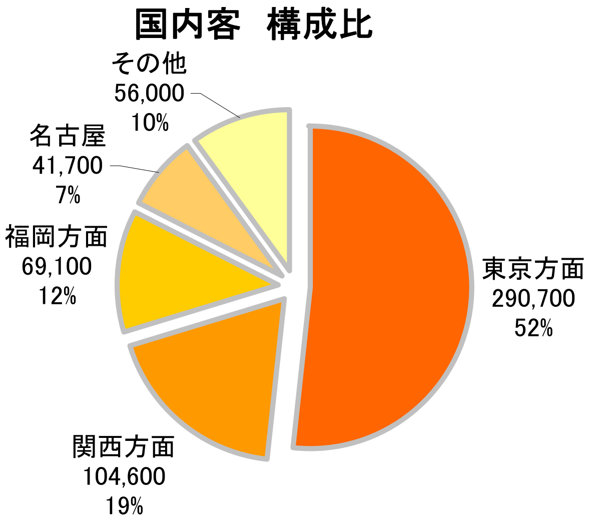
地域別入域状況（国内）

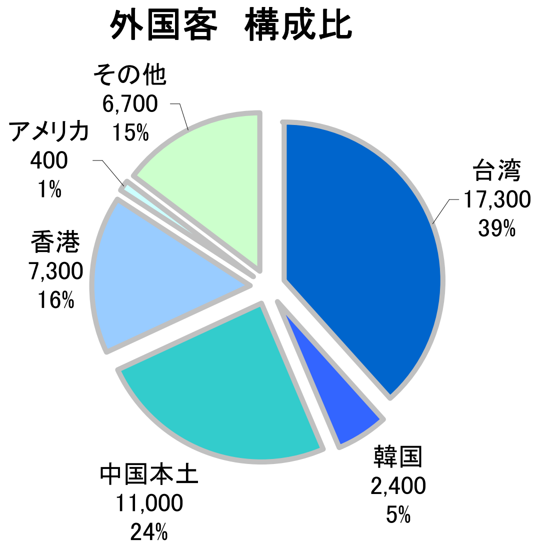
区分	国内観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
東京方面	290,700 人	278,900 人	+ 11,800 人	+ 4.2%	51.7%
関西方面	104,600 人	114,100 人	△ 9,500 人	△ 8.3%	18.6%
福岡方面	69,100 人	72,700 人	△ 3,600 人	△ 5.0%	12.3%
名古屋	41,700 人	45,500 人	△ 3,800 人	△ 8.4%	7.4%
その他	56,000 人	48,400 人	+ 7,600 人	+ 15.7%	10.0%
合計	562,100 人	559,600 人	+ 2,500 人	+ 0.4%	100.0%

※国内海路客：3,100人を含む　（関西：100人、鹿児島：3,000人）

国籍別入域状況（海外）

区分	外国人観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
台湾	17,300 人	14,300 人	+ 3,000 人	+ 21.0%	38.4%
韓国	2,400 人	2,000 人	+ 400 人	+ 20.0%	5.3%
中国本土	11,000 人	3,800 人	+ 7,200 人	+ 189.5%	24.4%
香港	7,300 人	8,000 人	△ 700 人	△ 8.8%	16.2%
アメリカ	400 人	300 人	+ 100 人	+ 33.3%	0.9%
その他	6,700 人	5,200 人	+ 1,500 人	+ 28.8%	14.9%
合計	45,100 人	33,600 人	+ 11,500 人	+ 34.2%	100.0%





国籍別　空路・海路　入域状況（海外）

区分	空　路　26,400人 観光客数	増減率	構成比	海　路　18,700人 観光客数	増減率	構成比
台湾	9,000 人	+57.9%	34.1%	8,300 人	△3.5%	44.4%
韓国	2,400 人	+20.0%	9.1%	0 人	－	0.0%
中国本土	5,500 人	+150.0%	20.8%	5,500 人	+243.8%	29.4%
香港	7,300 人	△6.4%	27.7%	0 人	皆減	0.0%
アメリカ	400 人	+33.3%	1.5%	0 人	－	0.0%
その他	1,800 人	+5.9%	6.8%	4,900 人	+40.0%	26.2%
合計	26,400 人	+34.0%	100.0%	18,700 人	+34.5%	100.0%

※特例上陸者数：6,800人を含む

各方面ごとの概況と見通し

平成24年9月公表資料

東京

8月について、スカイツリーやTDR関連商品が好調であったり、台風による影響等があったものの、沖縄への旅行需要は安定しており、対前年実績を上回った。
今後について、TDRハロウィーンや東京駅関連、ハワイ、タイ等の海外競合による影響は懸念されるが、学生旅行向けの商品が好調にあるなど、沖縄向け商品は安定しており、堅調な推移が見込まれる。

大阪

8月について、夏休み期間ということで対前年を上回る状況であったが、台風の影響で、週末におけるツアーキャンセルが発生し、見込まれていた旅行者数を下回る推移となった。
9月については連休の日並びが影響し、大きな伸びは期待できないが、早期申し込みの旅行商品が順調であること、また、10/18ピーチアビエーション、10/28ジェットスターが就航するため、LCC利用による個人客の増加に期待が持てる。

福岡

8月について、国体九州地区予選が開催される関係で、一般旅行客の航空座席数が限定されたこと、台風14号及び15号の影響で、空港閉鎖及び航空各社の運休により、ツアーキャンセルが発生したため、対前年実績を下回った。
今後は、震災の影響による旅行動向の西向き傾向が東に戻っているため、旅行先人気は東京方面となっており、前々年度並みで推移するものと見込まれる。

名古屋

8月について、那覇空港経由の八重山への客数が好調にはあるものの、月の前半と後半に襲来した台風の影響もあり、月全体としては前年を下回った。
今後は首里城祭、那覇大綱引きなど地元イベントとタイアップした企画が好評であり、好調な推移が見込まれているが、8月同様、台風の影響による旅行キャンセルが懸念される。

台湾

8月は台風による影響で、特にクルーズ船客の減少となったものの、昨年同時期と比べても復興航空、華信航空が就航しており、空路客はむしろ増加したため、全体としても対前年で21%のプラスとなった。
今後について、9月から定期便化した復興航空のメディアツアーや芸能人によるプロモーション効果等により旅行需要の喚起が期待され、好調な推移が見込まれる。

韓国

8月は台風による飛行機のキャンセル、学生の休み期間の縮小、竹島訪問による日本旅行自粛ムードによるマイナス要因はあったが、昨年と比較するとアシアナ航空が(週4→7便)増便しており、結果としては5.3%の微増となった。
今後、竹島問題による日本旅行自粛や台風などの懸念のこともあるが、旧盆連休やテレビショッピング販売やインセンティブツアー等による誘客効果により堅調な推移が見込まれる。

中国本土・北京

8月は香港の尖閣諸島上陸により、那覇港や那覇空港の映像が北京でも流れ、旅行社の中には沖縄行きの団体ツアーのキャンセルが数件あったようだが、他方、ゴルフ等の超高付加価値旅行商品の売れ行きが好調であったり、一概に悪い状況では無い。
今後について、現地旅行社の閑散期の旅行商品販売による誘客が期待されるが、日中関係悪化により一部の旅行商品でキャンセルも発生しており、予想が難しい。

中国本土・上海

8月は台風の影響により航空機による週末便の欠航があったが、月全体としては搭乗率が概ね好調だったこと、さらには大型クルーズ船の寄港(1回)があったため前年実績を上回った。
今後について、前年に比べると航空機の便数は拡大しているが、日中関係悪化により旅行予約状況に影響がでてきているケースがあり、今後の動向に留意する必要がある。

香港

8月について、各旅行社とも沖縄路線については夏休みということで、昨年実績から若干の落ち込んだものの、予約状況については引き続き好調な推移を見せている。
今後について、夏休みが明けてファミリー等の旅行需要が低下する見込みではあるが、国慶節の連休や重陽節の休日を活用した旅行需要が見込まれており、堅調な推移が見込まれる。

担当：観光政策課　稲福（イナフク）　TEL：098－866－2763

平成24年10月公表資料

平成２４年（２０１２年）
９月　入域観光客数概況

９月の観光客数は、50万7,300人
対前年（H23）同月比　－1万1,100人、－2．1％

入域状況

平成23年度9月比 入域観光客数

区分	H24	H23	増減数	増減率	構成比
国内客	474,800 人	486,300 人	△ -11,500 人	△ 2.4%	93.6%
外国客	32,500 人	32,100 人	+ 400 人	+ 1.2%	6.4%
合計	507,300 人	518,400 人	△ -11,100 人	△ 2.1%	100%

平成22年度9月比 入域観光客数

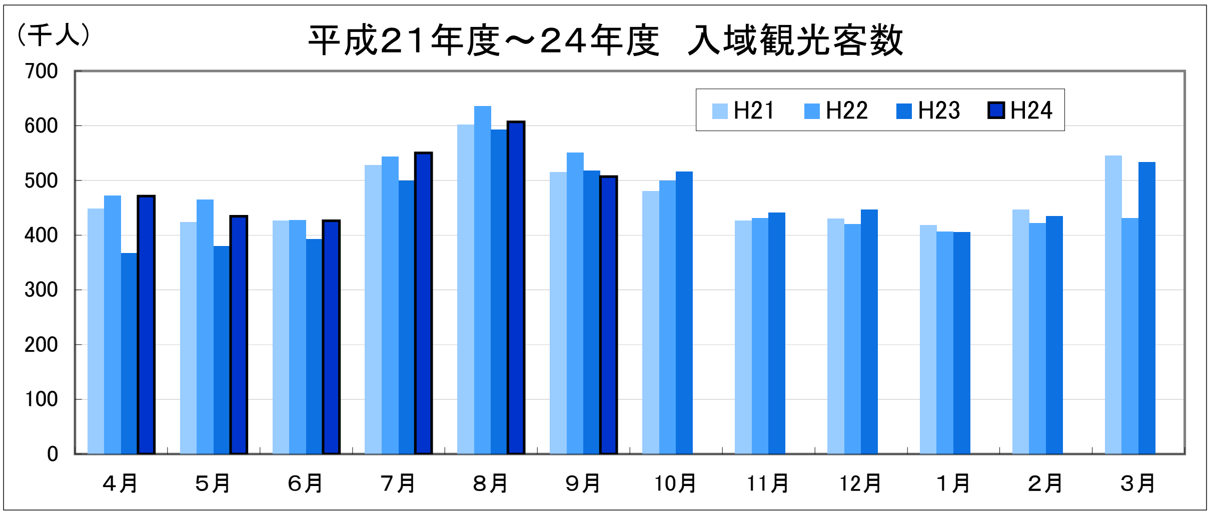
区分	H24	H22	増減数	増減率	構成比
国内客	474,800 人	513,000 人	△ 38,200 人	△ 7.4%	93.6%
外国客	32,500 人	37,800 人	△ 5,300 人	△ 14.0%	6.4%
合計	507,300 人	550,800 人	△ 43,500 人	△ 7.9%	100%

国内客　入域状況

9月については需要が高い週末に2回の大型台風が襲来し、航空機のキャンセル等も発生したことに加え、国内外観光地との競合もあり、前年実績を下回った。
一方で、関西空港からのLCC2社就航、宮古を舞台にしたNHKドラマなど明るい材料もあるため、今後は緩やかな回復基調で推移するものと見込まれる。

外国客　入域状況

9月については台風の影響に加え、尖閣諸島問題の影響による中国本土からの観光客のキャンセル等も発生したが、台湾の航空路線が拡充（週14便→25便）されていることから、台湾からの観光客数が増加し、全体的には対前年同月比で微増となった。
台湾、香港、韓国については、大きな影響は見られないが、中国本土からの航空路線が運休、減便となっており、10月以降は当面大きな影響が出る見通しである。



平成24年10月公表資料

地域別入域状況（国内）

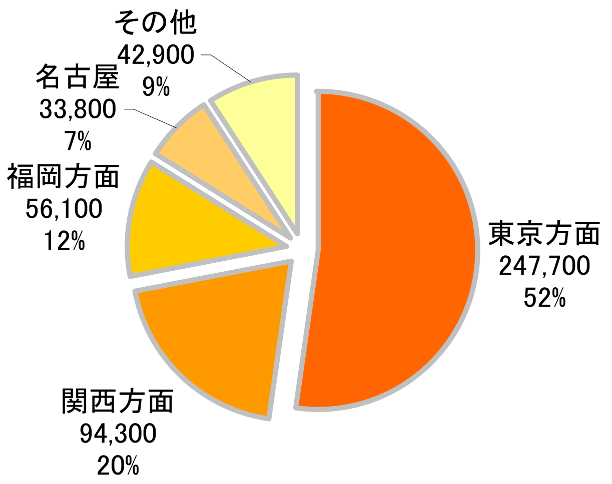
区分	国内観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
東京方面	247,700 人	250,300 人	△ 2,600 人	△ 1.0%	52.2%
関西方面	94,300 人	99,600 人	△ 5,300 人	△ 5.3%	19.9%
福岡方面	56,100 人	59,200 人	△ 3,100 人	△ 5.2%	11.8%
名古屋	33,800 人	38,000 人	△ 4,200 人	△ 11.1%	7.1%
その他	42,900 人	39,200 人	+ 3,700 人	+ 9.4%	9.0%
合計	474,800 人	486,300 人	△ 11,500 人	△ 2.4%	100.0%

※国内海路客：1,900人を含む　（東京：100人、関西：100人、鹿児島：1,700人）

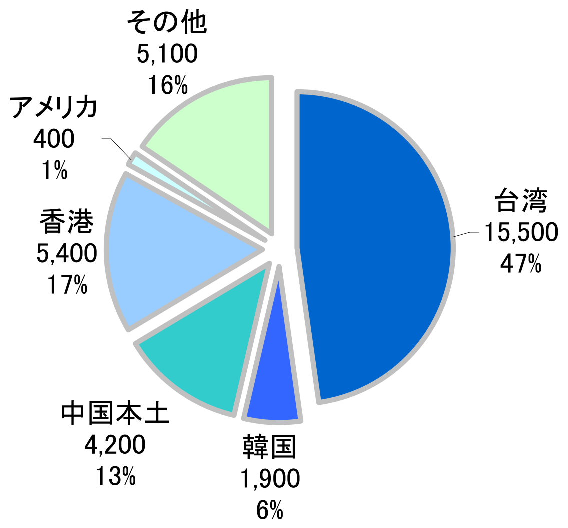
国籍別入域状況（海外）

区分	外国人観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
台湾	15,500 人	15,300 人	+ 200 人	+ 1.3%	47.7%
韓国	1,900 人	1,900 人	△ 0 人	△ 0.0%	5.8%
中国本土	4,200 人	4,400 人	△ 200 人	△ 4.5%	12.9%
香港	5,400 人	5,600 人	△ 200 人	△ 3.6%	16.6%
アメリカ	400 人	400 人	△ 0 人	△ 0.0%	1.2%
その他	5,100 人	4,500 人	+ 600 人	+ 13.3%	15.7%
合計	32,500 人	32,100 人	+ 400 人	+ 1.2%	100.0%

国内客　構成比



外国客　構成比



国籍別　空路・海路　入域状況（海外）

	空　路　19,500人			海　路　13,000人		
区分	観光客数	増減率	構成比	観光客数	増減率	構成比
台湾	8,000 人	+9.6%	41.0%	7,500 人	△6.3%	57.7%
韓国	1,900 人	+0.0%	9.7%	0 人	−	0.0%
中国本土	2,700 人	△3.6%	13.8%	1,500 人	△6.3%	11.5%
香港	5,400 人	△3.6%	27.7%	0 人	−	0.0%
アメリカ	400 人	+0.0%	2.1%	0 人	−	0.0%
その他	1,100 人	+10.0%	5.6%	4,000 人	+14.3%	30.8%
合計	19,500 人	+2.6%	100.0%	13,000 人	△0.8%	100.0%

※特例上陸者数：5,500人を含む

各方面ごとの概況と見通し

東京

9月について、相次ぐ台風の影響で旅行各社のツアー商品が伸び悩んだ。秋季において、国内の京都、広島、九州、そして近場の関東圏、海外のハワイ、東南アジア方面の旅行商品が引き続き人気が高く、全体的には、安価な若者向けのパックツアー等が人気であった。
今後について、八重山、宮古、久米島の離島商品が好調に推移しているケースが見られるが、東京への旅行需要も高く、沖縄県全体への観光客数は伸び悩みが懸念される。

大阪

9月について、週末に襲来した台風の影響で、航空各社の欠航によりキャンセルが相次いだ結果、入域者数が減少する結果となった。
10月については旅行各社の旅行商品、特に離島商品が順調であり、また、LCC2社が相次ぎ関空沖縄線を就航させ、お手ごろ価格で行ける沖縄をPRしているため、観光客数の増加が期待される。

福岡

9月について、近距離と円高効果による韓国、デイリー運航のハワイ等の海外や東京などの国内競合地が好調であり、更に週末に台風が直撃したため、観光客数は前年実績を下回った。
今後の見通しとしては、旅行各社の下期商品も出そろったなか、特に、下期の一般の団体旅行の予約が好調で対前年に比べ、観光客数の増加が期待される。

名古屋

9月は旅行会社の企画商品は八重山、宮古など離島の人気があり、前半は前年度並みの推移が確保できる勢いであったが、後半は台風の影響があり前年同月実績を下回った。
今後について、首里城祭、那覇大綱引きなど地元イベントに参加する企画が好評であること、また、八重山や宮古でロケを行ったNHKのドラマ放映により離島への問い合わせが増えているケースも見られ、堅調な推移が見込まれる。

台湾

9月は台風による影響で、キャンセルは発生したものの、昨年同月と比べると復興航空、華信航空が就航しており、空路客が増加したため、対前年比で1.3%の微増となった。
今後について、クルーズ船をはじめ、好調な航空路線を背景に、沖縄への旅行需要は安定しているため、好調な推移が見込まれる。

韓国

9月は台風襲来の他、領土問題による日本側の反韓感情、日本政府の新聞広告が民間の領域にもマイナスの影響を与えたが、昨年と比較するとアシアナ航空が(週5→7便)増便しており、結果としては前年並みとなった。
今後、竹島問題による日本旅行自粛の懸念はあるが、インセンティブツアーや旧盆連休、スーパーモデル大会及びK-POP公演も沖縄旅行ムード造成に一役買うものと期待される。

中国本土・北京

9月は尖閣国有化による過去最大級の反日デモが実施されたことや航空路線の運休により、団体、個人旅行で多くのキャンセルが発生し、観光客数は大きく伸び悩んだ。この影響により中国本土からの観光客の増減率が昨年9月以来、12ヶ月ぶりに対前年比を下回った。
今後について、旅行会社への新規予約や問合せが少なくなっている状況から、当分厳しい状況になると思われ、昨年と比較すると国慶節期間中の観光客数の減少が見込まれる。

中国本土・上海

9月11日の尖閣諸島の国有化に伴い、吉祥航空の就航延期、東方航空の減便（週12便→7便※）が決まったことで、団体客を中心にキャンセルが相次いでいることから、前年同月比は大きく伸び悩んだ（※10/12～10/31は週7便→4便の減便予定）。
今後について、尖閣問題がいつ頃収束するのか予測がつかないことから、観光プロモーション、観光セミナー等が実施できない状況にあり、10月の国慶節は大幅減が予想される。

香港

9月については、円高や2度の台風の襲来、尖閣問題による影響は多少あったものの、安定した旅行需要に支えられて昨年同月実績から微減にとどまった。
今後は尖閣問題の緊張関係の中で、団体客を中心に現地の旅行社での申し込みが減っているケースもあるが、個人旅行中心の旅行社は比較的影響が小さい模様。尖閣問題に伴う影響と同じくらい円高に対する懸念があり、前年並みの推移が見込まれる。

担当：観光政策課　稲福（イナフク）　TEL：098－866－2763

平成24年11月公表資料

平成２４年（２０１２年）
１０月　入域観光客数概況

10月の観光客数は、51万9,700人
対前年(H23)同月比　＋4,100人、＋0．8%

入域状況

平成23年度10月比 入域観光客数

区分	H24	H23	増減数	増減率	構成比
国内客	488,200　人	474,800　人	＋　13,400　人	＋　2.8%	93.9%
外国客	31,500　人	40,800　人	△　-9,300　人	△　22.8%	6.1%
合計	519,700　人	515,600　人	＋　4,100　人	＋　0.8%	100%

平成22年度10月比 入域観光客数

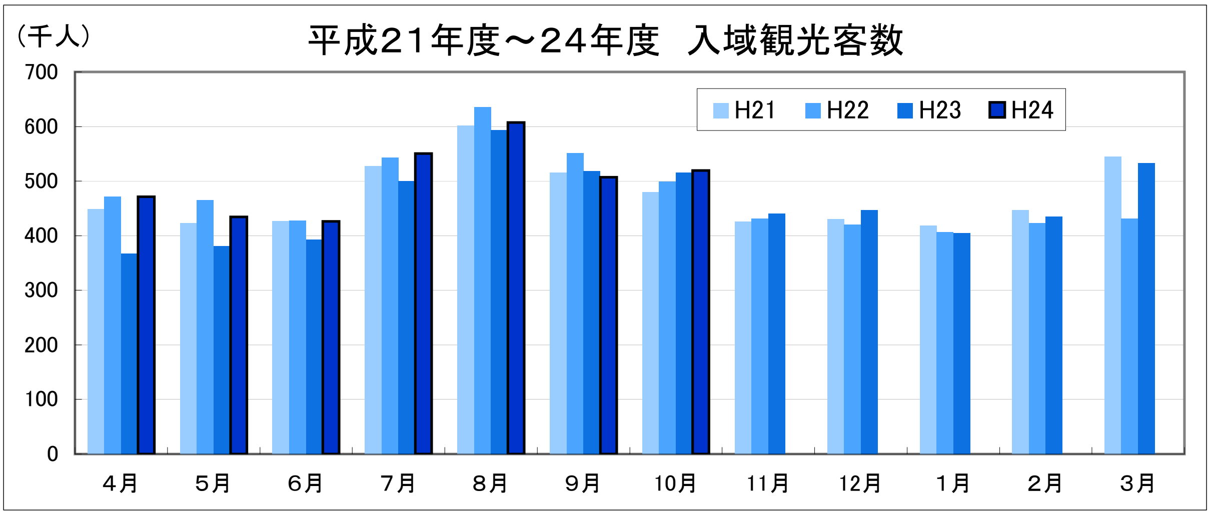
区分	H24	H22	増減数	増減率	構成比
国内客	488,200　人	470,900　人	＋　17,300　人	＋　3.7%	93.9%
外国客	31,500　人	28,600　人	＋　2,900　人	＋　10.1%	6.1%
合計	519,700　人	499,500　人	＋　20,200　人	＋　4.0%	100%

国内客　入域状況

10月については台風の接近による影響はあったものの、成田からの客数増加など東京方面が好調に推移し、前年実績を上回った。
今後とも円高による海外競合地との競争が予想されるものの、旅行会社によるキャンペーンの増加や、関西空港からの新たなLCC就航による効果が期待できるため、小幅ながらも前年同月を上回る水準で推移するものと見込まれる。

外国客　入域状況

10月についてはクルーズ船の寄港回数減少(9回→6回)による海路客の減少、尖閣諸島、円高の影響による旅行需要の低下により13ヵ月ぶりに対前年実績を割り込んだ(-22.8%)ものの、台湾については10月までの累計で前年実績を上回った。
台湾、韓国は好調な推移が見込まれているが、中国からの航空路線の運休・減便、香港からの客数の伸び悩みなど、全体的には当面、厳しい状況が予想される。



地域別入域状況（国内）

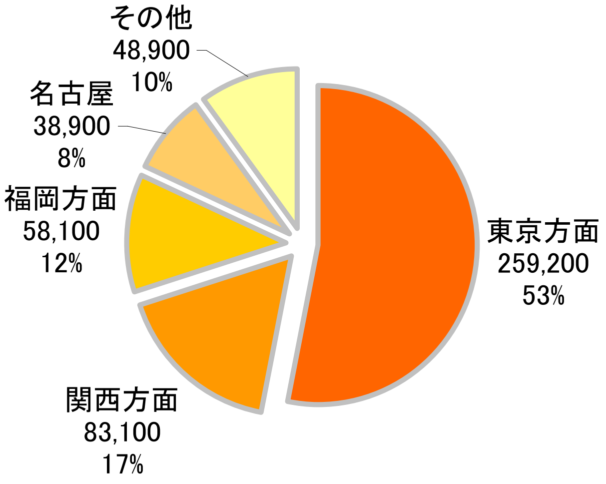
区分	国内観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
東京方面	259,200 人	244,400 人	+ 14,800 人	+ 6.1%	53.1%
関西方面	83,100 人	84,200 人	△ 1,100 人	△ 1.3%	17.0%
福岡方面	58,100 人	61,900 人	△ 3,800 人	△ 6.1%	11.9%
名古屋	38,900 人	37,800 人	+ 1,100 人	+ 2.9%	8.0%
その他	48,900 人	46,500 人	+ 2,400 人	+ 5.2%	10.0%
合計	488,200 人	474,800 人	+ 13,400 人	+ 2.8%	100.0%

※国内海路客：1,900人を含む　（関西：100人、鹿児島：1,800人）

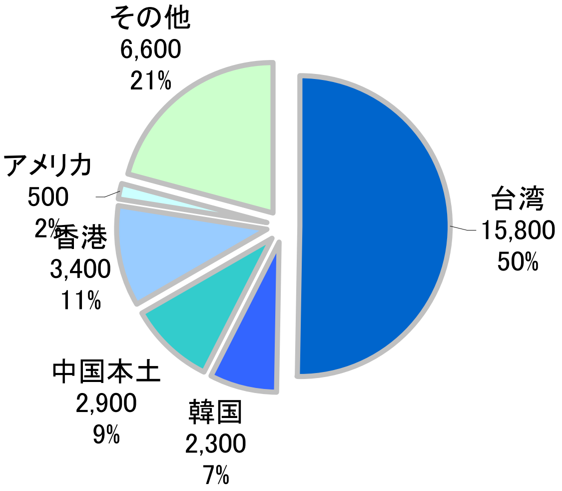
国籍別入域状況（海外）

区分	外国人観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
台湾	15,800 人	15,300 人	+ 500 人	+ 3.3%	50.2%
韓国	2,300 人	1,700 人	+ 600 人	+ 35.3%	7.3%
中国本土	2,900 人	7,100 人	△ 4,200 人	△ 59.2%	9.2%
香港	3,400 人	5,500 人	△ 2,100 人	△ 38.2%	10.8%
アメリカ	500 人	1,700 人	△ 1,200 人	△ 70.6%	1.6%
その他	6,600 人	9,500 人	△ 2,900 人	△ 30.5%	21.0%
合計	31,500 人	40,800 人	△ 9,300 人	△ 22.8%	100.0%

国内客　構成比



外国客　構成比



国籍別　空路・海路　入域状況（海外）

	空　路　17,400人			海　路　14,100人		
区分	観光客数	増減率	構成比	観光客数	増減率	構成比
台湾	8,900 人	+45.9%	51.1%	6,900 人	△25.0%	48.9%
韓国	2,300 人	+43.8%	13.2%	0 人	皆減	0.0%
中国本土	900 人	△75.0%	5.2%	2,000 人	△42.9%	14.2%
香港	3,100 人	△40.4%	17.8%	300 人	+0.0%	2.1%
アメリカ	400 人	△73.3%	2.3%	100 人	△50.0%	0.7%
その他	1,800 人	△5.3%	10.3%	4,800 人	△36.8%	34.0%
合計	17,400 人	△12.6%	100.0%	14,100 人	△32.5%	100.0%

※特例上陸者数：6,200人を含む

各方面ごとの概況と見通し

東京

10月について、昨年の「世界のウチナーンチュ大会」による前年同月比の減数や台風接近によるキャンセルが発生したが、成田からの客数増加、那覇市内を中心に県内各地のイベントによる誘客等により前年を上回る推移となった。
今後について、関東圏の商業施設、冬場のハワイ、グアム、タイなどが沖縄観光の競合地として好調に推移する見通しだが、本島、離島とも前年並みの推移になると推測される。

大阪

10月について、九州新幹線利用の九州方面は落ち着いてきた状況であるが、台風の影響や東京とTDRの人気により、旅行需要が伸び悩み、前年実績よりも下回った。
11月について前月のLCCの就航や旅行会社の沖縄対策商品パンフレットによる秋期キャンペーン等が実施され、例年好調な時期でもあるため好調に推移するものと思われる。

福岡

10月について、台風の接近や旅行会社による夏商品から秋商品の切り替え時期に当たり、旅行需要が低下傾向だったため、観光客数は前年実績を下回った。
今後の見通しとしては、旅行各社の11月からの対策商品、キャンペーンは好調に推移しており、女性客の増加が期待される。冬キャンペーン及び観光タクシークーポン告知の対策商品パンフレットへの掲載で、冬期の観光客数の増加が期待される。

名古屋

10月は台風の影響があったものの、那覇まつりや綱引きなどのイベントのツアーが好評であったことから前年同月実績を上回り、好調推移した。
今後について、宮古島、離島周遊するツアーへの問い合わせの増加、美ら海水族館とタイアップしたツアーや首里城祭りなどに参加する旅行商品が好調であること、更に先月から引き続き中国旅行を沖縄へ振り替える動きがあることから好調な推移が見込まれる。

台湾

10月は前年同月と比べるとクルーズ船寄港回数の減少により海路の客数は減少となったが、航空路線が拡充したため空路客が増加(+51%)となった。台湾については10月までの累計で前年実績を上回り118,300人となった。
今後について、好調な航空路線を背景に沖縄への旅行需要は安定しているため、特に空路による客数増加により好調な推移が見込まれる。

韓国

10月は領土問題、円高による旅行需要のマイナス要因があるなか、沖縄の知名度向上や昨年と比較したときのアシアナ航空の増便(週5→7便)等の効果もあり、好調に推移した。
今後、冬場の沖縄への旅行需要増加のシーズンに入り、アシアナ航空の増便(週9便)、釜山-那覇路線の就航(週2便)、12月のジンエアーの就航予定、ティーウェイ航空のチャーター便等、航空路線の拡充が予定されており、空路客を中心に好調な推移が見込まれる。

中国本土・北京

10月は尖閣諸島関連による反日デモ等の目立った動きは見られなかったが、日本への旅行需要自体は改善しておらず、航空路線の減便等により、昨年の3月の震災以来の大幅な減少(−59.2%)となった。
今後について、旅行会社への新規予約や問合せが少なくなっていること、航空路線の再開の見通しが立っていないことから、当分の間は減少傾向が予想される。

中国本土・上海

尖閣諸島関連の影響が本格化し、沖縄を含む訪日団体ツアーはどこも販売を自粛、若しくは販売を継続していてもPRができず、実績がでない状況となっており、大幅な減少となった。
今後について、中国ネット販売大手でも訪日個人旅行の取り扱いをストップするなか、航空路線の再開の動きも見られず、2月の大型連休時にも影響が予想され、観光客数に関しても厳しい状況が予想される。

香港

10月については、円高、台風の接近、そして尖閣諸島に係る影響により、旅行需要の落ち込みが見られ、前年同月実績から大幅な減少(−38.2%)となった。
円高や尖閣諸島の緊張関係の中で、現段階では旅行マインドの回復が不十分との想定がされており、香港ｴｸｽﾌﾟﾚｽ航空では11月から定期便の一部運休を実施する予定となっている。
今後は香港市場においても伸び悩みの傾向が予想される。

担当：観光政策課　稲福（イナフク）　TEL：098－866－2763

平成24年12月公表資料

平成２４年（２０１２年）
１１月　入域観光客数概況

１１月の観光客数は、48万3,100人
対前年（H23）同月比　＋4万2,400人、＋9．6％

入域状況

平成23年度11月比 入域観光客数

区分	H24	H23	増減数	増減率	構成比
国内客	468,800 人	426,800 人	+ 42,000 人	+ 9.8%	97.0%
外国客	14,300 人	13,900 人	+ 400 人	+ 2.9%	3.0%
合計	483,100 人	440,700 人	+ 42,400 人	+ 9.6%	100%

平成22年度11月比 入域観光客数

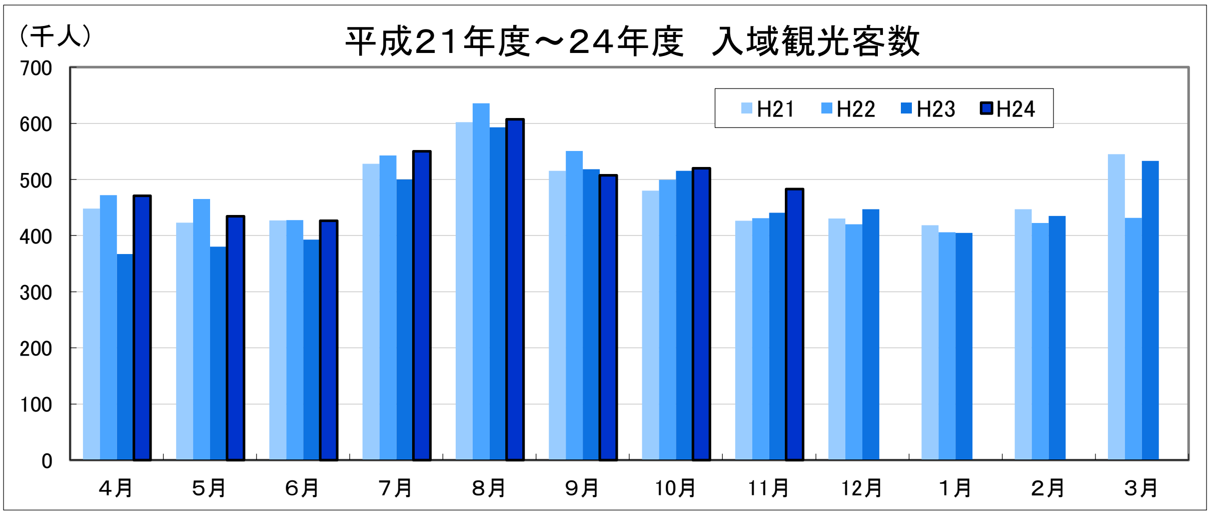
区分	H24	H22	増減数	増減率	構成比
国内客	468,800 人	422,500 人	+ 46,300 人	+ 11.0%	97.0%
外国客	14,300 人	8,400 人	+ 5,900 人	+ 70.2%	3.0%
合計	483,100 人	430,900 人	+ 52,200 人	+ 12.1%	100%

国内客　入域状況

11月について、札幌からの直行便やLCCによる成田・関西からの客数増加、下旬の連休効果に加え、2,000人規模のMICEが複数あり、観光客数は好調に推移したことから、前年実績を上回った。
12月はLCCや年末年始の日並びの良さ等による集客が期待されるが、依然、円高による海外旅行が好調に推移していることもあり、前年並みの推移が見込まれる。

外国客　入域状況

11月について、尖閣諸島関連の影響により中国本土、香港からの観光客数の減少は続いているが、航空路線が拡充した台湾、韓国を中心に空路による客数が増加しているため、外国人全体では前年実績をわずかに上回った。
台湾、韓国は好調な推移が見込まれているが、中国からの航空路線の運休・減便、香港からの客数の伸び悩みなど、全体的には当面、厳しい状況が予想される。



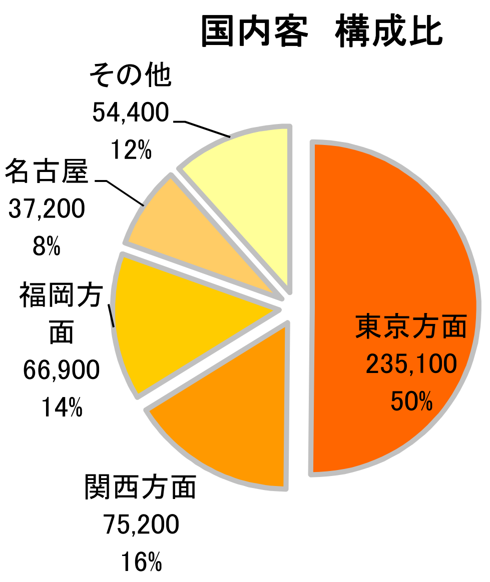
地域別入域状況（国内）

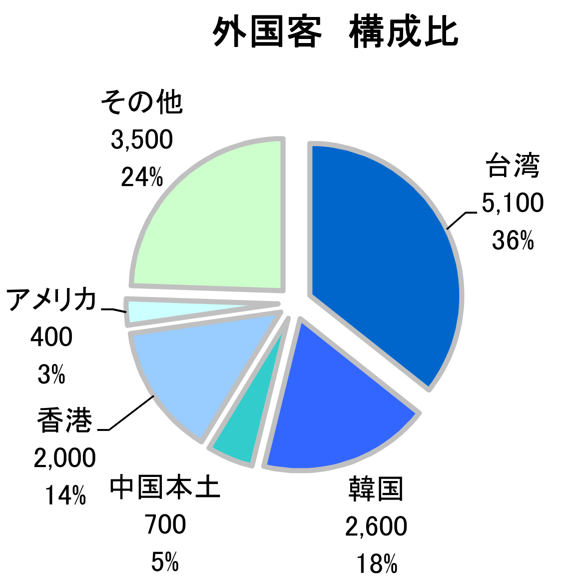
区分	国内観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
東京方面	235,100 人	210,100 人	+ 25,000 人	+ 11.9%	50.1%
関西方面	75,200 人	73,100 人	+ 2,100 人	+ 2.9%	16.0%
福岡方面	66,900 人	59,800 人	+ 7,100 人	+ 11.9%	14.3%
名古屋	37,200 人	35,300 人	+ 1,900 人	+ 5.4%	7.9%
その他	54,400 人	48,500 人	+ 5,900 人	+ 12.2%	11.6%
合計	468,800 人	426,800 人	+ 42,000 人	+ 9.8%	100.0%

※国内海路客：3,300人を含む　（東京：100人、関西：200人、鹿児島：3,000人）

国籍別入域状況（海外）

区分	外国人観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
台湾	5,100 人	3,400 人	+ 1,700 人	+ 50.0%	35.7%
韓国	2,600 人	1,600 人	+ 1,000 人	+ 62.5%	18.2%
中国本土	700 人	2,900 人	△ 2,200 人	△ 75.9%	4.9%
香港	2,000 人	3,600 人	△ 1,600 人	△ 44.4%	14.0%
アメリカ	400 人	600 人	△ 200 人	△ 33.3%	2.8%
その他	3,500 人	1,800 人	+ 1,700 人	+ 94.4%	24.5%
合計	14,300 人	13,900 人	+ 400 人	+ 2.9%	100.0%





国籍別　空路・海路　入域状況（海外）

	空　路　11,800人			海　路　2,500人		
区分	観光客数	増減率	構成比	観光客数	増減率	構成比
台湾	5,100 人	+50.0%	43.2%	0 人	−	0.0%
韓国	2,600 人	+62.5%	22.0%	0 人	−	0.0%
中国本土	600 人	△79.3%	5.1%	100 人	皆増	4.0%
香港	2,000 人	△44.4%	16.9%	0 人	−	0.0%
アメリカ	300 人	△50.0%	2.5%	100 人	皆増	4.0%
その他	1,200 人	+0.0%	10.2%	2,300 人	+283.3%	92.0%
合計	11,800 人	△11.3%	100.0%	2,500 人	+316.7%	100.0%

※特例上陸者数：1,000人を含む

各方面ごとの概況と見通し

東京

11月について、中旬は入域客数が鈍化して伸び悩んだが、LCCの効果の他、第4週目の連休は那覇市内、リゾート、そして各離島のホテルとも好調に推移した。要因としては修学旅行が安定的に推移した他、コンベンションによる客数が好調に推移したことなどが挙げられる。
12月以降、年末年始は選挙や一般企業のボーナス減少、海外旅行需要の好調等による影響が懸念される。

大阪

11月について、個人旅行については各社伸び悩む傾向にあったが、LCC2社の関空沖縄線も好調で、今まで飛行機旅行に馴染みの無かった層の利用の増加に加え、沖縄修学旅行の時期でもあり、一般団体は好調であった。
今後について、昨年不調だった北海道が好調であり、沖縄は押され気味であるが、沖縄商品も低価格の商品により客数増加も期待されており、対前年並に推移するものと思われる。

福岡

11月について、紅葉の時期の関西は人気が高く、スカイツリーとTDRも依然として人気が高い傾向にあるが、下旬の連休や一般団体による客数が好調で前年実績を上回った。
今後について、年末年始は九州各県から県外への旅行は少なくなっている。緊張の続く中国、韓国への旅行者は減ってきており、ハワイへの客数も落ち着きを取り戻してきているが、沖縄については依然伸び悩んでおり、前年並みで推移するものと考えられる。

名古屋

11月について、各旅行会社、航空会社が新聞や電車内に広告を多く出稿した誘客効果や、美ら海水族館とタイアップしたツアーや首里城祭りなどに参加する旅行商品が好調に推移し、前年実績を上回った。
今後について、石垣島への直行便が就航予定であり、旅行社が重点的に集客に取り組んでいる他、航空会社等も新聞や電車内に広告を多く出しており、好調な推移が見込まれる。

台湾

11月について、今年のクルーズ船のシーズンは終了したものの、台湾からの旅行需要は安定しており、航空路線も拡充しているため50%の増加となった。
今後について、好調な航空路線を背景に那覇マラソンへの参加など沖縄への旅行需要は定着しており、年末年始も安定的な推移が見込まれる。

韓国

11月はアシアナ航空のソウル線の増便(週9便)、釜山のチャーター運航により前年実績を大幅に上回ったが、日並びの悪さ等により集客が伸び悩んでおり、一部で運休が発生した。
LCCのジンエアー(週7便)就航による運賃値下げ、それに伴う若年層の増加への期待や、インセンティブツアーが好調である他、10月末から円高も和らいだ感があり、冬季シーズンの観光客数の増加が期待され、12月は前年を上回る見込みである。

中国本土・北京

11月は個人旅行(FIT)の減少は団体旅行ほどではないものの、訪日(沖縄も含めて)の団体旅行の需要は回復しておらず、販売時期も見通せていない状況である。
今後について、北京路線の再開の動きも現在は見られないことから厳しい状況が予想される。

中国本土・上海

尖閣関連の影響から、未だ新聞などで募集する団体旅行は販売できていない。個人自由旅行については一部でネットによる販売をしているが、申し込みは少ない状況である。
訪日旅行への問合せが一部で増えてきている例もあり、2月の春節に向け、訪日旅行を販売したいとの旅行社はあるが、尖閣関連の推移を見守っている状態である。

香港

11月について、尖閣関連の影響により旅客数が著しく低下しているため、香港エクスプレス航空の定期便が月間で5本の便を運休するなど、日本全体への旅行需要が低下し、前年実績を下回った。
クリスマス、年末年始休暇時の旅行需要期に期待したいが、現段階では関係者からまだ回復が不十分との話も多く、前年実績を下回ると見込まれる。

担当:観光政策課　稲福(イナフク)　TEL:098－866－2763

平成25年1月公表資料

平成２４年（２０１２年）
１２月　入域観光客数概況

12月の観光客数は、46万3,400人
対前年（H23）同月比　＋1万6,600人、＋3．7%

入域状況

平成23年度12月比 入域観光客数

区分	H24	H23	増減数	増減率	構成比
国内客	446,300　人	432,600　人	＋　13,700　人	＋　3.2%	96.3%
外国客	17,100　人	14,200　人	＋　2,900　人	＋　20.4%	3.7%
合計	463,400　人	446,800　人	＋　16,600　人	＋　3.7%	100%

平成22年度12月比 入域観光客数

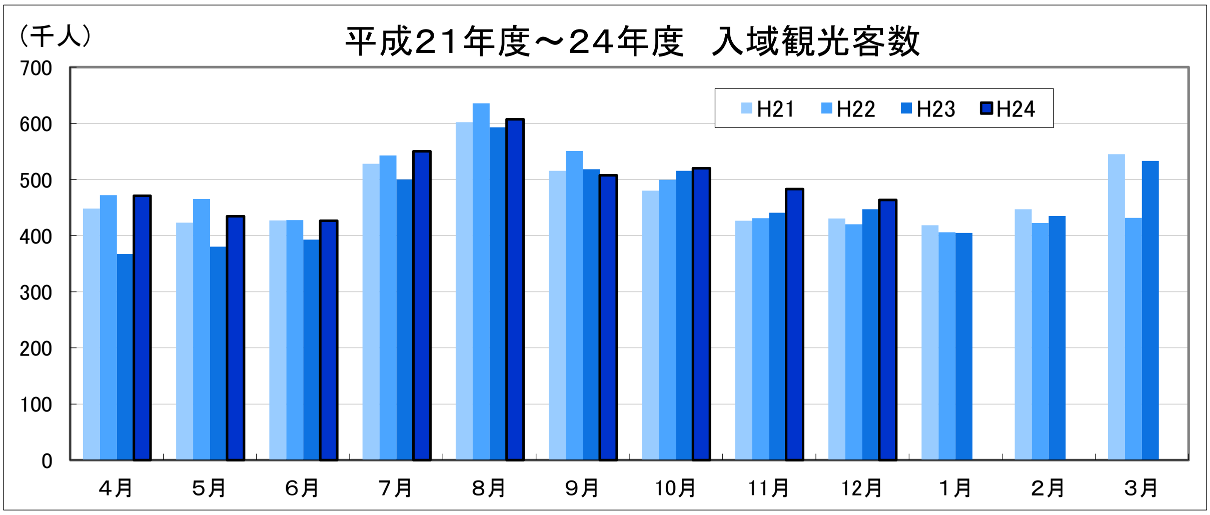
区分	H24	H22	増減数	増減率	構成比
国内客	446,300　人	409,800　人	＋　36,500　人	＋　8.9%	96.3%
外国客	17,100　人	10,600　人	＋　6,500　人	＋　61.3%	3.7%
合計	463,400　人	420,400　人	＋　43,000　人	＋　10.2%	100%

国内客　入域状況

　12月について、札幌からの直行便やLCCによる成田・関西からの客数増加、年末年始の日並びの良さから好調に推移し、前年実績を上回った。
　1月についてもLCCや年始の日並びの良さ等の関係から、中旬までは沖縄への旅行需要は好調を維持しており、月全体としては堅調な推移が見込まれる。

外国客　入域状況

　12月について、中国本土、香港からの観光客数は減少しているが、台湾、韓国からの増加によって月全体としては前年実績を上回った。特に韓国は航空路線の拡充により、12月としてはシェアが台湾を抜いて初めて1位となった。
　中国本土、香港では一部で訪日旅行商品の広告掲載が再開され、観光客数も下げ止まりつつある。1月としては台湾、韓国を中心に好調な推移が見込まれる。



地域別入域状況（国内）

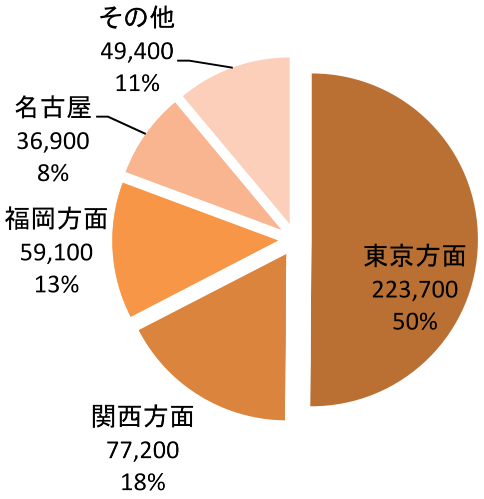
区分	国内観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
東京方面	223,700 人	224,600 人	△ 900 人	△ 0.4%	50.1%
関西方面	77,200 人	76,400 人	＋ 800 人	＋ 1.0%	17.3%
福岡方面	59,100 人	55,800 人	＋ 3,300 人	＋ 5.9%	13.2%
名古屋	36,900 人	33,100 人	＋ 3,800 人	＋ 11.5%	8.3%
その他	49,400 人	42,700 人	＋ 6,700 人	＋ 15.7%	11.1%
合計	446,300 人	432,600 人	＋ 13,700 人	＋ 3.2%	100.0%

※国内海路客：3,000人を含む　（関西：100人、鹿児島：3,000人、その他：400人）

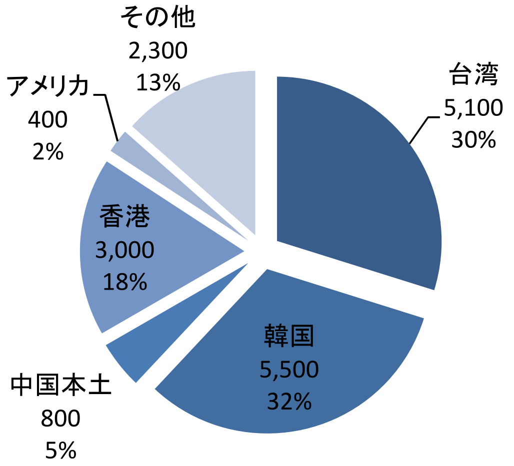
国籍別入域状況（海外）

区分	外国人観光客数	前年同月実績	増減数	増減率	構成比
台湾	5,100 人	3,200 人	＋ 1,900 人	＋ 59.4%	29.8%
韓国	5,500 人	1,900 人	＋ 3,600 人	＋ 189.5%	32.2%
中国本土	800 人	3,100 人	△ 2,300 人	△ 74.2%	4.7%
香港	3,000 人	3,700 人	△ 700 人	△ 18.9%	17.5%
アメリカ	400 人	500 人	△ 100 人	△ 20.0%	2.3%
その他	2,300 人	1,800 人	＋ 500 人	＋ 27.8%	13.5%
合計	17,100 人	14,200 人	＋ 2,900 人	＋ 20.4%	100.0%

国内客　構成比



外国客　構成比



国籍別　空路・海路　入域状況（海外）

	空　路　16,000人			海　路　1,100人		
区分	観光客数	増減率	構成比	観光客数	増減率	構成比
台湾	5,100 人	+59.4%	31.9%	0 人	－	0.0%
韓国	5,000 人	+163.2%	31.3%	500 人	皆増	45.5%
中国本土	800 人	△74.2%	5.0%	0 人	－	0.0%
香港	3,000 人	△18.9%	18.8%	0 人	－	0.0%
アメリカ	400 人	△20.0%	2.5%	0 人	－	0.0%
その他	1,700 人	+6.3%	10.6%	600 人	+200.0%	54.5%
合計	16,000 人	+14.3%	100.0%	1,100 人	+450.0%	100.0%

※特例上陸者数：700人を含む

各方面ごとの概況と見通し

東京

12月上旬から中旬にかけては、国政、東京都知事選などによる旅行市場の鈍化、円高を背景とした海外競合地との影響から前年を若干下回った。
今後について、1月上旬から中旬にかけては好調であるが、連休以降、離島関連商品やプロ野球キャンプ、花のカーニバル等のイベントによる観光客増加に期待したいところだが、間際予約の影響もあってか予約状況等が鈍化している。

大阪

12月について、関西地区では衆議院選挙後から旅行各社の旅行取り扱いが増加したことやLCC就航の効果もあり、年末休暇利用商品が好調に推移したため、対前年実績を上回った。
今後について、1月は3日以降の旅行代金が下がる時期の申込が増加して好調ではあるが、1月全体としては対前年から若干の増加するものと思われる。

福岡

12月について、山陰方面へのスキー商品、年末年始休暇が暦の関係で長期休暇の取得のし易さからハワイ等の海外が人気となっているが、沖縄方面も好調に推移しており、前年実績を上回った。
今後について、旅行代金の下がる1月3日以降の出発商品が人気となっているが、1月全体としては伸び悩む傾向がみられる。

名古屋

12月について、先月に引き続き各旅行会社、航空会社が新聞や電車内に広告を多く出稿したこと、今年は寒さが早めに訪れたので暖かい沖縄に関心が高まったこと等の影響により好調に推移した。
今後について、若い女性を対象とした街周歩きツアーなど手作り感のある企画や新石垣空港への直行便就航による旅行会社の重点的なキャンペーンにより好調な推移が見込まれる。

台湾

12月について、那覇マラソンへの参加者が沖縄入り(160名余)、台湾ドラマ沖縄撮影など、沖縄との人的交流は安定しており、加えて復興航空による航空便の増加分(週7往復)もあって前年実績を60%上回った。
今後について、航空便の増加を背景に空路を中心とした台湾から観光客数も増加傾向にあり、旅行需要も安定しているため今後も好調な推移が見込まれる。

韓国

12月について、11月中旬から開始されたソウル-那覇路線の増便、釜山からのチャーターに引続き、年末に就航したジンエアー(週7往復)による航空路線の大幅拡充により、月単位では過去最高の観光客数(5,500人)、12月としてはシェアが台湾を抜いて初めて1位となった。
今後について、例年1月は韓国からの沖縄観光がトップシーズンむかえる上に、ティーウェイ航空のチャーターによる誘客も予想されるため大幅な増加が見込まれる。

中国本土・北京

訪日旅行はFITが主流になってきており、JNTO北京も新聞広告(北海道の小樽)を掲載したほか、旅行社で広告を新聞で再開するとの意向が一部である。訪日旅行商品の募集型広告は控えているものの、客から要望があれば送客しているケースもある。
今後について、現時点では春節時においても訪日旅行商品を積極的に売り出す気配や北京路線の再開の動きも現在は見られないことから厳しい状況が予想される。

中国本土・上海

JNTOが上海有力新聞に訪日観光のイメージ広告を掲載したり、春節(2/10-15)向けの団体訪日旅行の新聞広告を出している旅行社が数社あるが沖縄ツアーは見当たらない状況。現在の沖縄への旅行者はほとんどがマルチビザ取得のための個人観光客となっている。
年末年始、春節かけて限定的に東方航空が増便を予定し、春節時のFIT商品が売れてはいるが、2月中旬以降は航空機の予約率が悪く、旅行者数の低迷が予想される。

香港

12月は比較的好調ではあるものの、広州では沖縄商品の販売は未だ再開されておらず、旅行需要、各旅行社の予約率についても厳しい状況が続いている。
1月について、香港エクスプレスが定期便の一部運休(10便程度)を予定しており、関係者からは回復が不十分との話も多く、前年実績を下回ると見込まれる。一方で訪日旅行商品の販売数は少しづつ増えており、春節に向けても着実に伸びていくことが期待されている。

担当:観光政策課　稲福(イナフク)　TEL:098－866－2763

平成２５年（２０１３）
１月　入域観光客数概況

平成25年2月公表資料

１月の観光客数は、42万9,700人
対前年（H24）同月比　＋2万4,700人、＋6．1％

入域状況

平成23年度1月比 入域観光客数

区分	H24	H23	増減数	増減率	構成比
国内客	414,100 人	385,100 人	＋ 29,000 人	＋ 7.5%	96.4%
外国客	15,600 人	19,900 人	△ -4,300 人	△ 21.6%	3.6%
合計	429,700 人	405,000 人	＋ 24,700 人	＋ 6.1%	100%

平成22年度1月比 入域観光客数

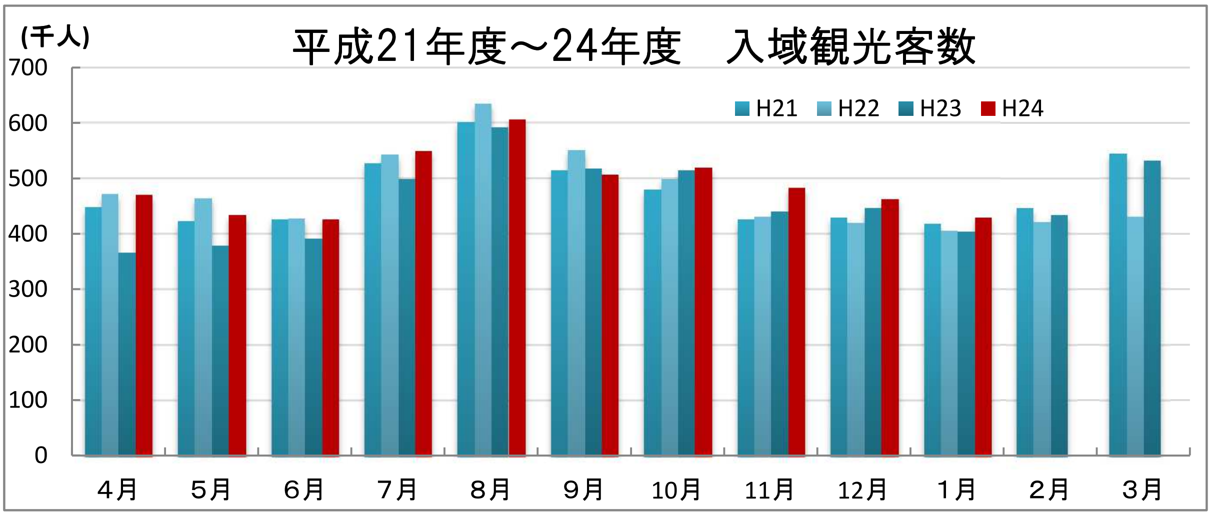
区分	H24	H22	増減数	増減率	構成比
国内客	414,100 人	392,000 人	＋ 22,100 人	＋ 5.6%	96.4%
外国客	15,600 人	14,200 人	＋ 1,400 人	＋ 9.9%	3.6%
合計	429,700 人	406,200 人	＋ 23,500 人	＋ 5.8%	100%

国内客　入域状況

1月は年始の日並びの良さやLCCによる成田・関西からの客数が増加したことなどから、全主要方面でプラスとなった。
2月も引き続きLCCによる誘客効果に加え、プロ野球キャンプや官民あげたプロモーション効果などにより増加する見込みである。

外国客　入域状況

例年の1月は沖縄への旅行需要が高まる韓国がジンエアーの就航などもあり、大幅な増加となったが、今年は中華圏における春節が2月（昨年は1/23）となったこともあり、全体としてはマイナスとなった。
2月は春節による台湾からの観光客数の増加が期待できるが、中国本土及び香港からの観光客数は低調に推移する見込みであり、全体として前年並みで推移する見通しである。



地域別入域状況（国内）

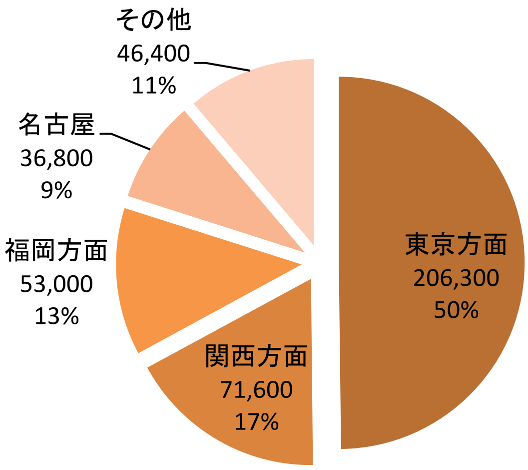
区分	H24年度	H23年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	206,300 人	192,900 人	＋ 13,400 人	＋ 6.9%	49.8%
関西方面	71,600 人	66,500 人	＋ 5,100 人	＋ 7.7%	17.3%
福岡方面	53,000 人	52,600 人	＋ 400 人	＋ 0.8%	12.8%
名古屋	36,800 人	33,000 人	＋ 3,800 人	＋ 11.5%	8.9%
その他	46,400 人	40,100 人	＋ 6,300 人	＋ 15.7%	11.2%
合計	414,100 人	385,100 人	＋ 29,000 人	＋ 7.5%	100.0%

※国内海路客:2,500人を含む　（鹿児島:2,100人、その他:400人）

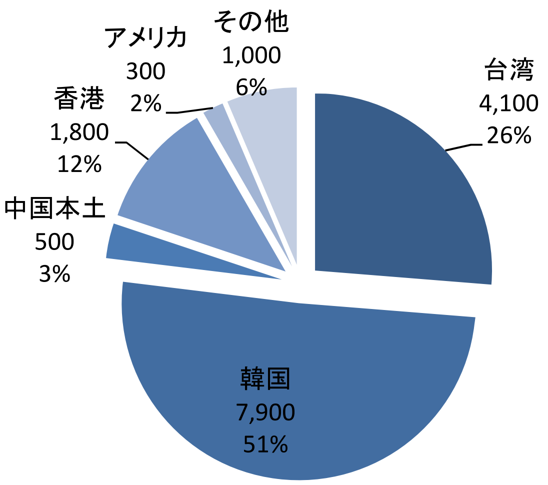
国籍別入域状況（海外）

区分	H24年度	H23年度	増減数	増減率	構成比
台湾	4,100 人	5,000 人	△ 900 人	△ 18.0%	26.3%
韓国	7,900 人	4,000 人	＋ 3,900 人	＋ 97.5%	50.6%
中国本土	500 人	4,600 人	△ 4,100 人	△ 89.1%	3.2%
香港	1,800 人	4,400 人	△ 2,600 人	△ 59.1%	11.5%
アメリカ	300 人	500 人	△ 200 人	△ 40.0%	1.9%
その他	1,000 人	1,400 人	△ 400 人	△ 28.6%	6.4%
合計	15,600 人	19,900 人	△ 4,300 人	△ 21.6%	100.0%

国内客　構成比



外国客　構成比



国籍別　空路・海路　入域状況（海外）

	空　路　15,300人			海　路　300人		
区分	観光客数	増減率	構成比	観光客数	増減率	構成比
台湾	4,100 人	△18.0%	26.8%	0 人	－	0.0%
韓国	7,900 人	+97.5%	51.6%	0 人	－	0.0%
中国本土	500 人	△89.1%	3.3%	0 人	－	0.0%
香港	1,800 人	△59.1%	11.8%	0 人	－	0.0%
アメリカ	300 人	△40.0%	2.0%	0 人	－	0.0%
その他	700 人	△36.4%	4.6%	300 人	+0.0%	100.0%
合計	15,300 人	△21.9%	100.0%	300 人	+0.0%	100.0%

※特例上陸者数:300人を含む

東京

1月上旬、2週目の連休期間は前年より増加傾向となった。また、成田就航のLCCの影響により観光客数が増加し、前年を上回る推移となった。
2月について、プロ野球、サッカーキャンプ関連による誘客効果や、羽田から新石垣空港へANA路線再開によるキャンペーン、また、2月上旬から主要新聞による大規模な沖縄関連の広告掲載もあり、順調に販売されれば2月中旬から3月にかけて好調な推移が見込まれる。

大阪

1月について、予約状況によるホテル稼働率も全体的に良好で前年並みの数字を維持し、また、関西空港を中心に、LCCによる誘客効果、チャーター便等もあり好調に推移したことで対前年実績を上回った。
2、3月ともに前年を上回る数字で推移しているが、上期に比べると離島への予約状況は伸び悩みの傾向がみられる。今のところ4月は本島離島共に好調で前年実績を上回る見込み。

福岡

旅行申込時期に当たる12月に衆議院選挙が行れた影響で、1月の航空各社及び旅行各社の実績は伸び悩みもみられつつも前年並みの実績となった。
2月は連休の日並びで旅行客の増加が見込まれ、旅行各社の申込状況も順調である。3,4月の学生旅行の伸びが現時点では低調だが、各入学試験が終わる今後の増加も期待され、対前年並みから若干プラス傾向で推移するものと思われる。

名古屋

中部国際空港会社主催のキャンペーンや新石垣空港の直行便就航等の問い合わせがかなり多く、沖縄への関心が根強いことから好調に推移し、前年実績を上回った。
今後について、2月は航空会社が臨時便増便を予定していること、新石垣空港、離島周遊や特典が多く付いたパッケージも好評で中日ドラゴンズキャンプ関連で沖縄への旅行、出張者も多くいことから好調な推移が見込まれる。

台湾

1月について、昨年同時期よりも復興航空が週7往復で就航しているものの、春節時期(昨年は1/23)がずれていることもあり、その反動で旅行需要が落ち込んだことから前年実績を下回った。
今後について、航空便の増加を背景に空路を中心とした観光客数は増加傾向にあり、2月10日の春節連休にかけて好調な推移が見込まれる。

韓国

1月について、冬休みによる旅行需要の増加、釜山からのチャーター、年末に就航したジンエアー(週7往復)による航空路線の大幅拡充により、過去最高の観光客数(7,900人)となった。
2月について、短い旧正月(土～月)連休で近距離の沖縄への客数増加が期待され、宮古島チャーター便(2/8～10)、ティーウェイ航空チャーターによる誘客が期待されるため好調な推移が見込まれる。

中国本土・北京

一部の旅行社は新聞雑誌広告で日本旅行商品(「本州6日」「東京北海道6日」)の掲載をはじめたり、JNTOの新聞広告、地下鉄広告が実施されているが、その他の旅行社の日本向け旅行広告再開には至っていない。
2月の春節には沖縄向けにも多少のFIT客の需要がある。2月末から北京市内でも交通政策課の予算を活用したビル広告(沖縄路線復活のための観光PR)を1カ月実施する。

中国本土・上海

日中関係悪化により旅行販売は厳しい状況。沖縄ツアーを含む訪日旅行の新聞広告はほとんど見かけない。旅行各社ともFIT向けにウェブ、店頭での販売のみとなっている様子。
今後しばらくは大きな好転は望めない。2月中旬からJNTOが北京、上海、広州などで大々的に地下鉄、バス、タクシーなどで「日本の花見」をPRする予定。2/25-3/13には沖縄県単独(交通政策課予算)でのウェブ上のPR及び地下鉄広告なども開始し、需要喚起を図る。

香港

1月は香港エクスプレスにおいて定期便の一部運休(10便)が実施された。各旅行社の予約率についても厳しい状況が続いており、冬場ということもあり未だ団体・FITとも回復が不十分な様子。春節を含む2月以降の予約率については12月、1月より出足は良いとのこと。
今後について、　各旅行社とも春節の旅行需要による回復、3月のイースターホリディによる増加が見込まれるが、昨年秋以降の落ち込みの影響もあり、前年度比では減となる見込み。

担当：観光政策課　稲福（イナフク）　TEL：098－866－2763

平成25年3月公表資料

平成２５年（２０１３）
２月　入域観光客数概況

２月の観光客数は、46万3,200人
対前年（H24）同月比　＋2万8,400人、＋6．5%

入域状況

平成23年度2月比 入域観光客数

区分	H24	H23	増減数	増減率	構成比
国内客	438,700　人	418,700　人	＋　20,000　人	＋　4.8%	94.7%
外国客	24,500　人	16,100　人	＋　8,400　人	＋　52.2%	5.3%
合計	463,200　人	434,800　人	＋　28,400　人	＋　6.5%	100%

平成22年度2月比 入域観光客数

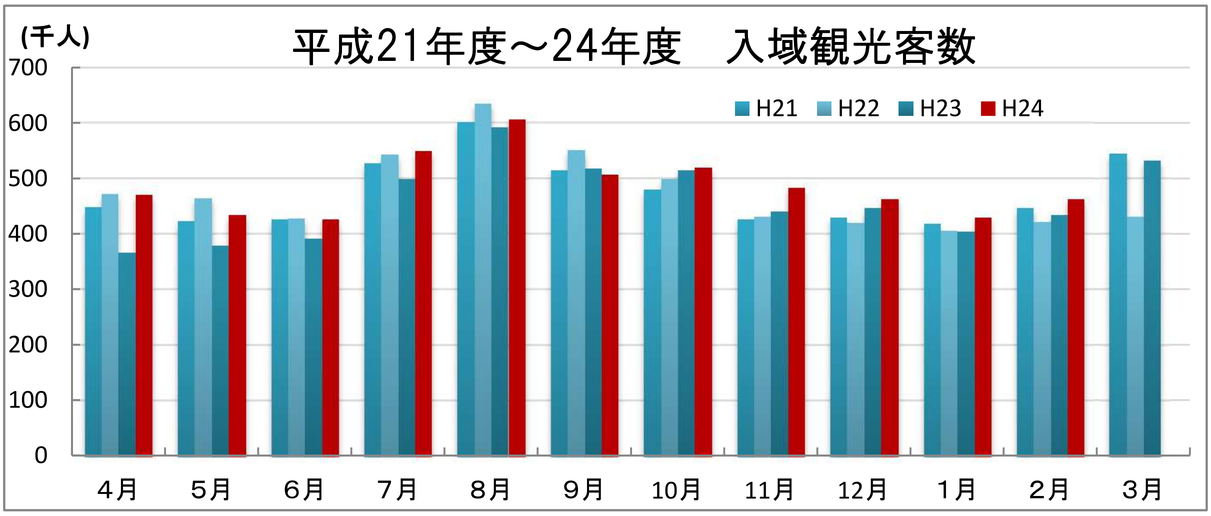
区分	H24	H22	増減数	増減率	構成比
国内客	438,700　人	407,600　人	＋　31,100　人	＋　7.6%	94.7%
外国客	24,500　人	14,900　人	＋　9,600　人	＋　64.4%	5.3%
合計	463,200　人	422,500　人	＋　40,700　人	＋　9.6%	100%

国内客　入域状況

2月にあった3連休を背景に、成田・関西におけるLCCの誘客効果に加え、プロ野球キャンプ、修学旅行、官民あげたプロモーション効果などにより好調に推移した。
3月は春休みによる学生旅行や県内イベント等による旅行需要が高まるシーズンに合わせ、LCCを利用した若年層の観光客数増加による好調な推移が見込まれる。

外国客　入域状況

2月は春節時期となったため、航空路線が拡充している台湾、韓国からの観光客数増加に加え、尖閣関連の影響を受ける中国本土、香港からの観光客数も持ち直しが見られた。
3月も引き続き台湾、韓国からの観光客数増加が期待されるが、中国本土、香港からの観光客数は依然として厳しい状況が見込まれる。



地域別入域状況（国内）

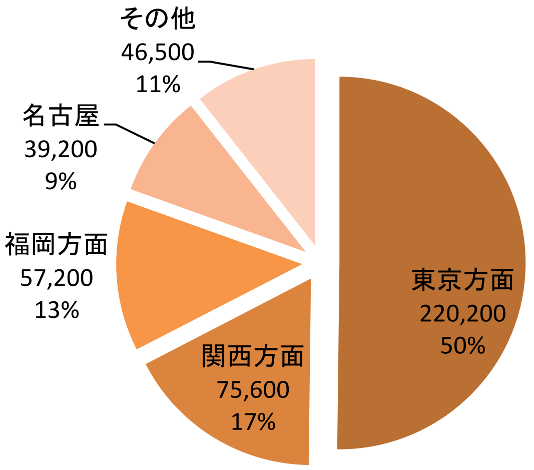
区分	H24年度	H23年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	220,200 人	208,300 人	+ 11,900 人	+ 5.7%	50.2%
関西方面	75,600 人	70,200 人	+ 5,400 人	+ 7.7%	17.2%
福岡方面	57,200 人	56,000 人	+ 1,200 人	+ 2.1%	13.0%
名古屋	39,200 人	39,900 人	△ 700 人	△ 1.8%	8.9%
その他	46,500 人	44,300 人	+ 2,200 人	+ 5.0%	10.6%
合計	438,700 人	418,700 人	+ 20,000 人	+ 4.8%	100.0%

※国内海路客:2,400人を含む　（関西:100人、鹿児島:1,900人、その他:400人）

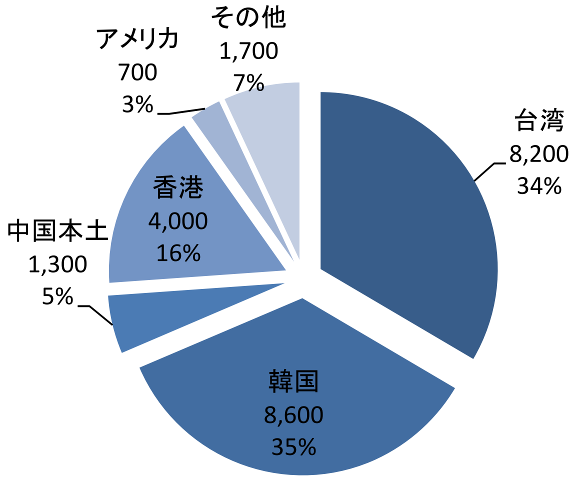
国籍別入域状況（海外）

区分	H24年度	H23年度	増減数	増減率	構成比
台湾	8,200 人	3,500 人	+ 4,700 人	+ 134.3%	33.5%
韓国	8,600 人	4,700 人	+ 3,900 人	+ 83.0%	35.1%
中国本土	1,300 人	2,700 人	△ 1,400 人	△ 51.9%	5.3%
香港	4,000 人	3,500 人	+ 500 人	+ 14.3%	16.3%
アメリカ	700 人	400 人	+ 300 人	+ 75.0%	2.9%
その他	1,700 人	1,300 人	+ 400 人	+ 30.8%	6.9%
合計	24,500 人	16,100 人	+ 8,400 人	+ 52.2%	100.0%

国内客　構成比



外国客　構成比



国籍別　空路・海路　入域状況（海外）

	空　路　23,300人			海　路　1,200人		
区分	観光客数	増減率	構成比	観光客数	増減率	構成比
台湾	8,200 人	+134.3%	35.2%	0 人	－	0.0%
韓国	8,600 人	+83.0%	36.9%	0 人	－	0.0%
中国本土	1,300 人	△51.9%	5.6%	0 人	－	0.0%
香港	4,000 人	+14.3%	17.2%	0 人	－	0.0%
アメリカ	300 人	△25.0%	1.3%	400 人	皆増	33.3%
その他	900 人	△10.0%	3.9%	800 人	+166.7%	66.7%
合計	23,300 人	+47.5%	100.0%	1,200 人	+300.0%	100.0%

※特例上陸者数:800人を含む

各方面ごとの概況と見通し

東京

2月は成田線のLCC誘客効果やプロ野球キャンプ、修学旅行による入り込みがピークを迎えたこと、さらに、海洋博記念公園の集客があったこともあり好調に推移した。
3月は春休み期間に加えて、「沖縄アジア国際音楽祭」「沖縄国際映画祭」の大型イベントも開催が相次ぐことから順調に推移すると思われる。離島は新石垣空港の開港記念により旅行商品が好調に販売されており、八重山への入り込みが順調に推移すると思われる。

大阪

2月について、LCCによる誘客効果は1月実績に比べ上昇傾向にあり順調に推移した。旅行社も一部LCCを組み合わせた旅行商品の造成がはじまっており、学生2～3名程度の小団体、若年層の価格訴求型商品への関心が高い。
今後について、GWの沖縄方面の旅行商品は前年に比べ伸び悩みの傾向がある。TDR30周年関連商品が大きく需要を伸ばしており、その影響が出ている可能性がある。

福岡

2月にあった連休を背景に、内容にボリューム感のある手ごろな旅行商品がシニア層に人気だったことや一般団体においてもクローズする冬場のゴルフ場に代わる沖縄でのゴルフ旅行も好調だったことから前年実績を上回った。
今後は春休み期間に入るため、3月は好調に推移して行くものと思われるが、4月以降のTDR30周年記念キャンペーンが実施されるため競合が予想される。

名古屋

2月について、プロ野球等のキャンプによる旅行需要が高かったこと、阪急交通やクラブツーリズムなどが空席の多い時間帯の便に割安な商品を設定し好評ではあったが、一部の路線で減便があり、前年よりも微減となった。
今後について、引き続き新空港開港,直行便就航で石垣への問い合わせがかなり多く、春休みの旅行需要増加と合わせて本島、石垣への旅行需要の増加が期待される。

台湾

2月について、昨年と比べ復興航空の週7便が増加しており、春節時期による旅行需要の増加から好調に推移した。
今後について、沖縄への旅行需要は安定しており、ここ最近の円安による旅行代金低下の効果に加え、航空路線も拡充されていることから、引き続き好調な推移が見込まれる。

韓国

2月について、航空路線の増便、新規就航に加え、旧正月連休やプロ野球キャンプによる宮古島への誘客効果等により好調に推移した。TWAY航空のチャーター便運航（2/7～3/3 送客7便）に伴っての価格競争により旅行需要の喚起もあったものと考えられる。
今後は3月末日からジンエアーが週7便→5便減便されるが、それでも航空路線は拡充されており、円安による旅行需要増加等を背景に好調な推移が見込まれる。

中国本土・北京

春節期間も団体客は少ないが、以前より改善しているケースもあった。FITは減っておらず、沖縄への観光客は主にマルチビザを持っている人と日本旅行経験者が占めている。
今後について、4月の桜の花見シーズン、中国の五一労働節時期（GW）に合わせた旅行プランが旅行会社から販売され、予想よりは販売が改善しているとのこと。ただし、最近尖閣諸島のニュースは毎日出ているので、楽観はできない状況にある。

中国本土・上海

春節時期は上海－那覇　5便/週、機材も大型化したため観光客数は増加となったが、春節以降はボトム期に当たるため旅行者数は伸び悩んだ。
今後もFIT客の旅行需要は変わらないが、しばらくは大きな好転は望めず、中国人全体としては減少となる見込み。各旅行社とも尖閣問題からの回復には時間が掛かるとの見方が多数占めている。

香港

2月の旅行需要の高まる春節休暇は円安の影響もあり、各旅行社において沖縄旅行商品が好調に推移した。1/9にスタートした冬場のキャンペーン（新聞広告や駅内広告等）により問い合わせ件数も増え、需要喚起に好影響を与えている。
今後について、3月末から始まるイースターホリディにより観光客の増加が見込まれるが、前年度比では減となる見込み。

担当：観光政策課　稲福（イナフク）　TEL：098－866－2763

平成25年4月公表資料

平成２５年（２０１３）
３月　入域観光客数概況

３月の観光客数は、56万8,900人
対前年(H24)同月比　＋3万5,800人、＋6．7%

入域状況

平成23年度との比較 入域観光客数

区分	H24	H23	増減数	増減率	構成比
国内客	544,300　人	510,200　人	＋　34,100　人	＋　6.7%	95.7%
外国客	24,600　人	22,900　人	＋　1,700　人	＋　7.4%	4.3%
合計	568,900　人	533,100　人	＋　35,800　人	＋　6.7%	100%

平成22年度との比較 入域観光客数

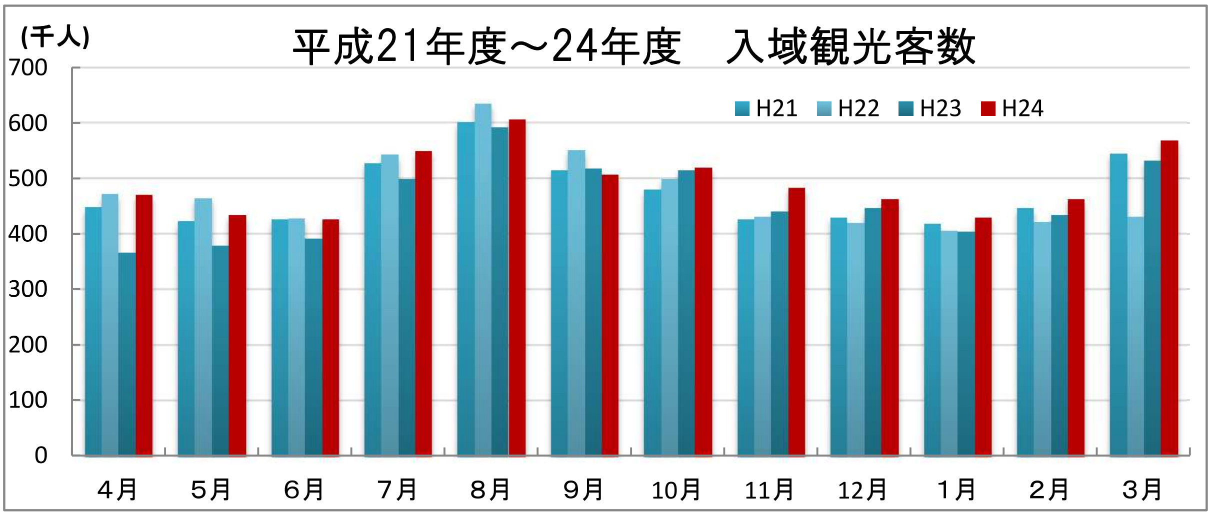
区分	H24	H22	増減数	増減率	構成比
国内客	544,300　人	423,300　人	＋　121,000　人	＋　28.6%	95.7%
外国客	24,600　人	8,400　人	＋　16,200　人	＋　192.9%	4.3%
合計	568,900　人	431,700　人	＋　137,200　人	＋　31.8%	100%

国内客　入域状況

3月は成田・関西におけるLCCの誘客効果に加え、新石垣空港の開港による石垣への観光客数増加、旅行会社による需要喚起により各方面で前年実績を上回り、好調に推移した。
4月も引き続きLCC利用の誘客効果をはじめ、各エアラインの予約状況が好調であること、石垣、宮古も客数増加が予想されることから堅調な推移が見込まれる。

外国客　入域状況

3月は航空路線が拡充している台湾、韓国からの観光客数増加に加え、台湾からのクルーズ船が寄港し始めたことから前年実績を上回った。
4月も引き続き台湾、韓国からの観光客数増加が期待されるが、中国人観光客数が前年実績を下回ることが予想され、月全体としては伸び悩みが見込まれる。



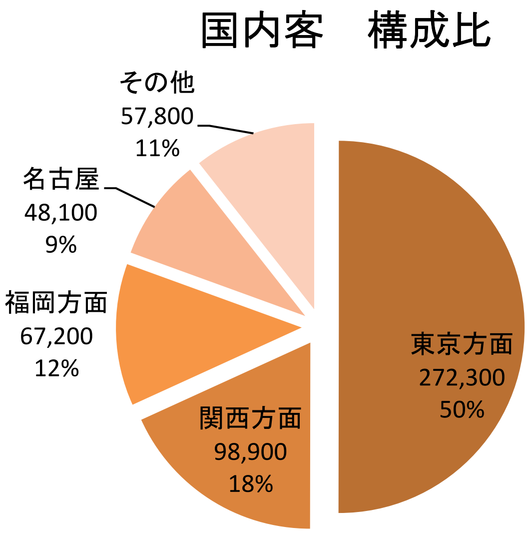
地域別入域状況（国内）

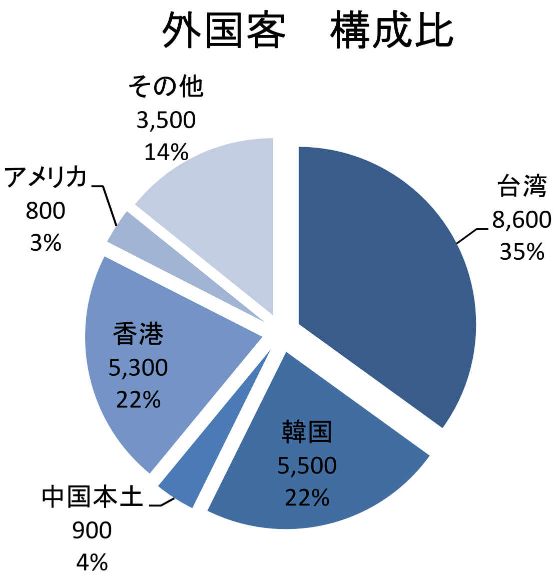
区分	H24年度	H23年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	272,300 人	251,700 人	+ 20,600 人	+ 8.2%	50.0%
関西方面	98,900 人	93,800 人	+ 5,100 人	+ 5.4%	18.2%
福岡方面	67,200 人	64,400 人	+ 2,800 人	+ 4.3%	12.3%
名古屋	48,100 人	44,500 人	+ 3,600 人	+ 8.1%	8.8%
その他	57,800 人	55,800 人	+ 2,000 人	+ 3.6%	10.6%
合計	544,300 人	510,200 人	+ 34,100 人	+ 6.7%	100.0%

※国内海路客:3,000人を含む　（東京:100人、関西:100人、鹿児島:2,800人）

国籍別入域状況（海外）

区分	H24年度	H23年度	増減数	増減率	構成比
台湾	8,600 人	3,600 人	+ 5,000 人	+ 138.9%	35.0%
韓国	5,500 人	2,400 人	+ 3,100 人	+ 129.2%	22.4%
中国本土	900 人	6,000 人	△ 5,100 人	△ 85.0%	3.7%
香港	5,300 人	5,000 人	+ 300 人	+ 6.0%	21.5%
アメリカ	800 人	600 人	+ 200 人	+ 33.3%	3.3%
その他	3,500 人	5,300 人	△ 1,800 人	△ 34.0%	14.2%
合計	24,600 人	22,900 人	+ 1,700 人	+ 7.4%	100.0%





国籍別　空路・海路　入域状況（海外）

	空　路　21,000人			海　路　3,600人		
区分	観光客数	増減率	構成比	観光客数	増減率	構成比
台湾	7,300 人	+102.8%	34.8%	1,300 人	皆増	36.1%
韓国	5,500 人	+129.2%	26.2%	0 人	−	0.0%
中国本土	600 人	△82.4%	2.9%	300 人	△88.5%	8.3%
香港	5,300 人	+23.3%	25.2%	0 人	皆減	0.0%
アメリカ	400 人	△20.0%	1.9%	400 人	+300.0%	11.1%
その他	1,900 人	+35.7%	9.0%	1,600 人	△59.0%	44.4%
合計	21,000 人	+34.6%	100.0%	3,600 人	△50.7%	100.0%

※特例上陸者数:1,900人を含む

各方面ごとの概況と見通し

東京

3月は成田からのLCC誘客効果、大型コンベンションの開催、春休みシーズンが影響し、団体旅行を中心に好調に推移した。また、「新石垣空港」の開港が各主要メディアを通して宣伝され、積極的なセールスが行われたこともあり、石垣への観光客数が大幅に増加した。
4月について、各エアラインの予約率や羽田・石垣、宮古島への客数も好調が予想され、また、今後のGWにおいては前半が伸び悩んでいる一方、後半は好調に推移する見込み。

大阪

3月は春休みの学生旅行など、若年層の価格訴求型商品への関心が高かったこと、また、LCCによる誘客効果が寄与し前年実績を上回った。
旅行会社による4月の沖縄旅行予約状況は好調であり、また、4月中旬からファミリー特化商品、低価格商品が販売され、5月以降の旅行予約動向に期待される。

福岡

3月は旅行会社によるキャンペーン等の効果もあり、月全体としては好調に推移した。
4月は機材不足の影響で減便が見込まれており、個人型旅行商品を中心に入域観光客数への影響が懸念される。また、4月～6月において、GW以外は連休がとりにくい歴のため九州エリア内での温泉旅行商品をはじめとする安近短の商品との競合が予想される。

名古屋

3月は旅行会社が空席の多い時間帯の便に割安な商品を設定し搭乗率が向上しており、更に新石垣空港開港に伴う、直行便就航による石垣路線を中心に旅行者数が好調に推移した。
4月の上旬と下旬は好調な予約状況となっており、特に石垣への旅行予約が好調である。JTAの支店の撤退による影響が懸念される。

台湾

3月は昨年と比べ復興航空が就航したこと（週7便）、さらにクルーズ船入港が一か月早く開始されたため、空路・海路において昨年実績を上回った。
今後は沖縄への旅行需要は安定しており、円安による旅行代金低下の効果に加え、航空路線も拡充されていることから、引き続き好調な推移が見込まれる。

韓国

3月は昨年同月と比較すると航空路線の増便、新規就航に加え、TWAY航空のチャーター便運航（2/7～3/3 送客7便）もあり、昨年実績を上回った。
今後は3月末日からジンエアーが週7便から週5便へと変更されたものの、円安による旅行需要増加等を背景に好調な推移が見込まれる。

中国本土・北京

一部の旅行会社では北京の新聞紙面、旅行広告等で「訪日旅行」広告が開始されているが、直行便がない段階では沖縄旅行の販売までには至っていない。
今後は海南航空、中国国際航空の運航再開が予定されているものの、尖閣関連の影響について注視していく必要がある。

中国本土・上海

各社とも花見ツアーを販売したが、予想に反して旅行客数は少ない結果となった。沖縄ツアーは団体客は見当たらず．FIT客がほとんどとなっている。
今後もFIT客の旅行需要に変化は見られないが、団体客は減少しており、中国人全体としては減少となる見込み。各旅行社とも尖閣関連の影響からの回復には時間が掛かるとの見方が多数占めている。

香港

日銀の金融緩和政策による円安や格安航空券販売の影響に加え、3月末から始まるイースターホリデーの連休を利用した旅行需要が高く、好調に推移した。
今後は6月に向けて家族旅行の需要が減少することが見込まれるが、6月後半から夏休みにかけ、徐々に旅行マインドが上がっていくことが想定される。また、機材の大型化もありコンスタントに旅行客は増加して行く見込み。

担当：観光政策課　稲福（イナフク）　TEL：098－866－2763